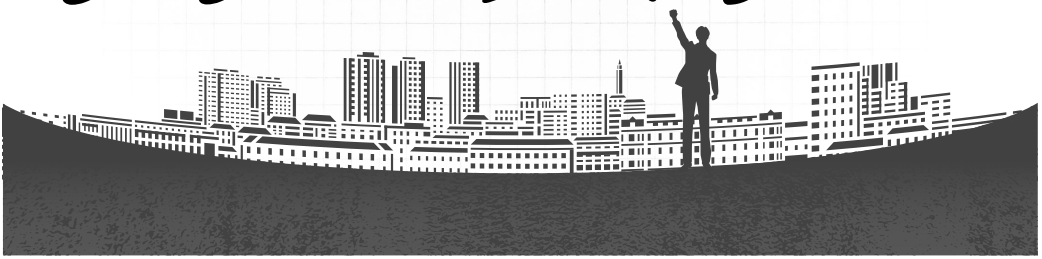
AGAROOT ACADEMY

合格者の最短ルート

合格体験記

令和６年合格者



令和６年度
予備試験合格

回数を重ねるごとに早く正確に書けるように

大川 和真さん（20 代前半）【論文１位】

大学５年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

法曹を志す親友の影響を受け、数多くの条文が有機的に結びつき、社会のルールを形作っている法律の世界に興味を抱きました。また、法曹は自分のような他学部出身のバックグラウンドも大いに生かせることを知り、受験を決めました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

アガルートで１年合格をした友人がいたため相談し、令和５年９月下旬に受講相談に申し込みました。他の予備校とも比較しましたが、講義時間や教材の分量がコンパクトに厳選されているアガルートであれば翌年に合格できる望みがあると考え、決断しました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

９月の終わり頃にアガルートから教材が届き、勉強がスタートしました。ただ、大学の実習があり、水泳競技もやっていたため、短答まで９か月、論文まで 11 か月という中、限られた時間を効率的に使う必要があると考えました。

法律の学習が完全に初めてだったため、友人の力を借りて計画を立てました。そして、総合講義１周目部分→重要問題習得講座１周目という順番で基本７科目を２月中に終え、３月中に選択科目、実務基礎科目を一通り終えました。

12 月から個人別マネージメントオプションにも申し込みました。当時の駒場ラウンジで谷山政司先生に初回をご担当いただき、民事系の答案の書き方を一から教わりました。それまで我流で答案を書いていましたが、法律答案はこれほどまでに洗練された形で美しく表現出来るものなのかと感動した記憶があります。その後、マネオプの回数を重ねるごとに自分なりの書き方の型が定まり、速く正確に書けるようになっていきました。

２月中旬から短答の過去問も解き始め、４月中に１周目、５月中に２周目を終えました。

６月初めに初見の令和５年度を解いて余裕があることを確認したため、再び論文の比重を増やし、７月中旬の短答本番までに３周目を終えました。

４月以降短答までの論文対策は、重要問題習得講座の復習と予備試験の過去問を中心に進めました。マネオプで毎回初見の過去問を添削してもらい、都度実力を確認しました。また、刑法や行政法を得点源にしたいと考えたため、刑法事例演習教材、事例研究行政法の２冊の問題集にも手を付けました。

短答以降はひとまず予備試験答練を全て終え、その後は選択科目と実務基礎科目に重点を置きつつ、全科目穴がなくなるように復習しました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

３月頃まではあまり勉強できない日もありましたが、毎日何かしらの進捗は生むように心がけていました。総合講義の２周目は机に座って聞くことはなく、移動時間を活用して聞き終えました。

試験を本格的に見据えるようになった４月以降は、勉強に充てられる時間は全て勉強に充てるようにし、日にもよりますが７～13時間くらい机に向かっていたと思います。

振り返ってみると、法律の勉強を終始楽しむことができてモチベーションを高く維持できたことが、結果的に可処分時間の確保や集中力の向上につながったと感じています。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

マネオプで点数がつく答案のポイントについて沢山教わっていたので、短答が終わった直後、それを意識しながら本番形式で時間を計って予備試験答練を全て起案しました。特に、問題文の事実に配点があるということは常々言われていたため、規範との対応を保ちつつ事実をなるべく沢山答案に書き写すことを意識しました。

その中で、論文は答案用紙に書き写せた事実の分量や文字数が物を言う試験であると認識したため、本番は全科目かなり小さめの文字で４枚目まで埋める作戦で行こうと考えました。そして、大変厳しい時間との闘いになることが予想できたため、直前期は最初から全力で手を動かすように意識して答案作成の練習をし、基礎知識の復習の際にも瞬時に論証を思い出せるか確認しました。

論文本番までには何とか全科目時間内に答案を書き終えられる目途が立ち、実務基礎科目を含めインプットも一応満足の行く水準には達したので、自信をもって臨むことが出来ました。

試験期間中の過ごし方

論文の会場にはマネオプの添削答案を何通か持ち込み、直前まで綺麗な答案のイメージを叩き込んでいました。試験自体は冷静でいれば大失敗はしないだろうと考え、いつもの起案と同様の気持ちで臨もうと思いました。とはいえ、やはり気合いが入っていたためか、普段より字を書くスピードが大幅に速くなっており、時間に余裕を感じました。

反省点としては、１日目の夜は興奮や疲れ等で思ったより勉強が捗らなかったので、勉強時間として当てにするべきではなかったです。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

論文では10科目中6科目は納得のいく答案を書け、残りも大失敗ではないと感じたので、手ごたえは良かったです。字がかなり乱れてしまった科目もあったのでその点少しだけ不安がありましたが、予備校の解答速報等を見て内容的には合格ラインを超えていると確信しました。

口述は過去問や模試を活用して入念に対策をしていったので、悪くない手ごたえで終えることができ、合格したと思いました。最終合格を確認できた時は安心しました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

マネオプや質問制度といったフォロー制度を最大限活用できたことが合格の決め手だったと思います。答案の書き方を一から十まで教えてくれて勉強のペースも作ってくれたマネオプは言うまでもなく、いつも丁寧な回答で疑問を解決してくれた質問制度も大いに活用しました。このようなフォロー制度が圧倒的に充実しているアガルートを選んで心底良かったと思います。そして、1年間腰を据えて法律の勉強ができたこと自体が僕にとって刺激的で楽しい経験となりました。

改めまして、マネオプで教えてくださった先生方、直接はお会いできなくても授業や質問対応をしてくださった講師の方々、いつも即日教材を発送してくださったスタッフの方々、大変お世話になりました。素晴らしい環境で勉強をさせてくださり、ありがとうございました。

アガルートアカデミーを一言で表すと

「ツアーガイド」です。試験の旅路を、迷うことなく導いてくれる存在でした。

受験生に対するメッセージ

最適化されたアガルートのカリキュラムとフォロー制度に沿って勉強するのが合格への近道だと思います。そして、たとえ上位合格を目指したとしてもやるべき内容は全く変わらず、結果を分けるのはその完成度の差にすぎないと感じます。

頑張ってください！

令和６年度

予備試験合格

講師の言葉は間違っていなかった

石井 智也さん（30 代前半）

社会人

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム / コーチングオプション

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

大学卒業後、在学中に興味を持った分野の会社に就職して、社会人として働いていました。仕事をしていくうえで様々な方と接することとなりましたが、人それぞれ何かしらの法律的なトラブルを抱えていることを知りました。28 歳になるタイミングで、今後の人生をどうしようかと考えた際に、日常の法律トラブルを解決できるような人間になりたいと考えて、法曹になることを目指しました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

予備試験について、調べていく中で最初に出会ったのが、アガルートアカデミーでした。無料受講相談やサンプルテキストの確認などを通じて自分の学習スタイルにマッチしていると考えて、予備試験最短合格カリキュラムに申し込みました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

アガルート講師の方がおっしゃっていることをとにかく遵守することを勉強の指針として持つようにしました。今振り返ると、「わからなくても前に進める」「インプットよりもアウトプット重視」「難解用語をわかりやすい言葉で説明できるようにする」などの講師の方々の言葉はすべて間違っていなかったと身をもって感じます。

一方で、一つだけ遵守できなかったことが、「過去問に早めに触れる」ということです。過去問は、最高の教材であることを試験本番の半年前に知り、それ以降はただひたすら過去問を解いていました。恐らく、この勉強方法を貫けたことで、何とか合格することができたと感じております。講師の方の言葉を信じ、もっと早めに触れておけばより良い成績を取ることができたと非常に後悔しています。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

予備試験を受けようと決めた際に、６年間ほど勤めていた会社を退職し、試験だけに全

力を注げる環境づくりをしました。背水の陣で臨む形となりましたが、専業受験生となったことで、１日の勉強時間を８～10時間ほど確保することができました。

食事、運動、休憩などの時間以外は常に勉強机の前にいること、適時休憩をとることで集中力を保持すること、睡眠を十分にとること、さぼる日を作らないことなど自分自身に制約を課して、一日一日を過ごしました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答直前期は、短答の過去問を年度ごとに時間を計って解き、正答率90～100パーセントになるように全年度分すべて解きました。

論文直前期は、予備試験の論文過去問を時間を計って解き、自身の設定した課題をクリアできていることを目標に、最低２周は起案しました。

口述直前期は、口述模試の受験、親族との面接練習の実施を中心に勉強しました。

いずれの試験についても、「いつも通り」のスタンスで試験本番に臨めるように努めました。

試験期間中の過ごし方

短答試験、論文試験、口述試験のいずれもホテルに宿泊したのですが、試験本番の疲労感は想定以上であり、次の日の試験に向けてなかなか普段通りに勉強することはできませんでした。そのため、YouTubeを見たりSNSを見たりする時間を作って、いったん頭をリフレッシュさせてから勉強時間を設けました。口述試験では、試験前日に初めてしっかりと学んだ論点が出題され、それに救われるというミラクルがあったので、最後まであきらめずに粘って勉強することの大切さを学びました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答式試験は、十分な直前対策をできたので自信をもって合格することができました。

論文式試験は、全ての問題に対して「問いに答える」「三段論法で書く」を徹底したという手ごたえはあったのですが、発表までは正直落ちたものだと思っていました。

口述式試験は、落ちたらまた短答からという現実の存在、及び採点基準がはっきりしないということもあり、全く手ごたえはありませんでした。

最終合格が決まった時には、これまでの努力は無駄ではなかったことが証明されたように感じ、うれしさよりも安心のほうが勝りました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、「過去問を極めること」です。

正直、試験本番の半年前まで、自分の実力不足を知るのが嫌だったため、過去問を遠ざけて勉強していました。しかし、これではだめだと思い、コーチング指導が過去問に切り替わったタイミングで、過去問中心の勉強スタイルへとチェンジしました。今振り返りますと、そこから一気に論文力が高まったと感じます。

結局のところ、アガルートの予備試験論文過去問解析講座のテキストをぼろぼろになる

まで使用し、勉強できたことが合格への最短ルートを切り開いたと胸を張って言えます。

アガルートアカデミーを一言で表すと

最短合格

受験生に対するメッセージ

法律の勉強は難しく、合格した今でも全然極めることができたと感じておりません。しかし、予備試験で出題される法律科目はすべて同じ思考方法で解くことができ、それに気づけば、後はひたすら過去問を解くだけです。

アガルートアカデミーのテキストをきちんとこなせば、予備試験の合格には必要十分だと思います。是非、目の前にあるテキストをぼろぼろになるまで、存分に利用して合格をつかみ取ってください！

令和６年度
予備試験合格

仕事をフルタイムでこなしながらの学習

遠藤 航さん（30 代前半）【論文 71 位】

社会人

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

職場で法令を利用することが多く、法令の仕組み等をもっと詳しく知るには、法曹になるのが一番いいのではないかと思ったため、法曹を目指した。

また、昔から法曹への憧れがあり、興味がある今しかないと思い目指すこととした。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

色々と調べてみると、独学で勉強するのはとても無理だと思い、予備校を探したらアガルートが出てきたのが知るきっかけ。

そこまでお金もなかったため、手頃な値段でまとまったカリキュラムを得られるアガルートの予備試験１年合格カリキュラムを選ぶことにした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

法律は完全初学者であったため、わからないことが当たり前だと思って、ひたすら立ち止まることなく勉強することにした。

仕事をフルタイムでこなしながらの学習だったため、平日は５時間以上、休日は 12 時間以上勉強して、２年以内に予備試験に受かると決めて勉強を始めた。

勉強方法はアガルートの提示している進捗表に沿って、忠実に進めていった。

時間がなくて、添削は一度も利用しなかったが、重要問題習得講座や予備試験過去問の模範解答のレベルが高く、なんとか予備試験に合格できるレベルには到達できた。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日は５時間以上、休日は 12 時間以上を目標に日々勉強に励んでいた。

平日は毎朝４時半（遅くても５時半）に起きて、８時半まで通勤時間も含めて勉強していた。昼休みもご飯を食べながら勉強していた。夜は帰りの移動時間から 20 時まで３時間弱勉強して、寝る生活を送っていた。

休日は５時から勉強を始めて、休憩を取らずに 12 時間は勉強していた。

直前期は、平日は７時間以上、休日は 14 時間と決めて勉強していたが、質より量の精神で勉強していたのが結果につながったと思う。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期はとにかく１日１問は過去問を起案して、手書きすることを心がけて実践していた。加えて、論文を書く時は、必ず時間を計って、試験本番を意識して解くことにしていた。

また、試験２週間前からは論証集をひたすら繰り返して、試験に備えていた。

試験中は、とにかく時間がないと思いながらも、重要問題習得講座と共通点がないかどうか必死に探して、正解もしくは正解らしいものにたどり着けるように努力した。

時間がなくなりながらも論文で途中答案はなかったので、そこは繰り返し過去問を解いたおかげかもしれない。

試験期間中の過ごし方

試験期間中はとにかくストレスを溜めないことと、解き終わった試験問題のことは考えないで、次の科目のことだけを考えるようにした。

論文式試験を１回目に受けた時は、ホテルを予約していたのだが、２回目の際はホテルよりも家に帰った方がリラックスできると思い、ホテルは取らずに自宅に帰る方法にしたが、これは個人的には正解だったと思う。

人によりけりだが、各自ストレスを溜めない方法を試験までに見つけて試験期間中もできるといいパフォーマンスにつながると思う。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

受験した時（特に論文）は可もなく不可もなくだなと思っていたが､後々再現答案を作って他の人の再現と見比べたりするうちにこれは受かってないなと思い、そこから全くと言っていいほど勉強が捗らなかった。

合格発表時は、落ちているだろうけど一応見てみるかと思ってみたところ、自分の受験番号があり、非常に驚いたとともに、何かの間違いじゃないかと何度も番号を確認してしまった。

ほんとに受かったことがわかった時は涙が出そうなほど嬉しかった。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手はなんといってもアガルートの作り込まれた数々の講座だと思う。

総合講義に始まり、重要問題習得講座はどの科目も網羅性が抜群で、論文試験の必須教材と言っても過言ではない。

また、短答式の問題集も一問一問がしっかりとした解説付きで、それだけをやっていれば十分合格点が取れるようなハイレベルな教材となっている。

また、論文過去問解析講座も先生の自作の参考答案は、当てはめから規範といった全て

が素晴らしく、非の打ち所がないものである。

私の予備試験合格はアガルート無くしてあり得ないと思う。

アガルートアカデミーを一言で表すと

合格の必要十分条件！

受験生に対するメッセージ

アガルートと信じてついていけば合格できます！頑張ってください！

令和６年度
予備試験合格

アガルートの教材に絞って勉強したことが重要だった

小野 蒼さん（20 代後半）

大学既卒

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

新卒入社した前職では、顧客との直接の接点がなく、４年半ほど勤める中で、顧客の顔や感情が見える仕事がしたいと感じるようになりました。そのような中、弁護士の仕事に興味を持ち、法曹を目指すこととなりました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

会社を辞めて専業受験生になろうと決めていたので、講座の価格と質を重視していました。ネット検索でアガルートを知り、講座の質については必要事項がまとまっていてわかりやすそうだと感じました。また、ちょうどそのころ予備試験合格カリキュラムの講座が（たしか）２割引になっていたので、アガルートに決めました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

アガルートが出している動画で、同じく会社を辞めて専業受験生となり、１回で予備試験に合格された方のインタビューを観て、いつ、何を、どれくらいやっていたのか、を参考にしていました。

勉強を始める前にどの教材がどれだけの量あるのか（テキストならページ数、問題集なら問題数）を洗い出し、試験日から逆算して１日当たりの勉強量を決めていました。理解が不十分だったりしてスケジュールに遅れが出ることも多々あったので、その都度（３か月に一度程度）計画を練り直していました。

試験直前ではない３～４月頃、答案をフルで書く頻度が少し多すぎた点が失敗だったと思います。１日１通を目安に書いていましたが、時間がかかるので過去問を周回するのが難しくなってしまいました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

会社を退職し専業受験生として、１日 12 時間を目標に勉強していました。総合講義、短答過去問、重要問題習得講座、論文過去問などやらなければならないことが多く、常に時間に追われるような形だったので、自然と勉強時間が積みあがっていきました。結果的には、論文試験までの平均勉強時間はちょうど 10 時間、総勉強時間は 3950 時間でした。

短答は疲れていると全く進まなくなってしまうので、朝～午前中にかけて勉強していました。

規則正しい生活を心がけ、起床、食事、就寝がいつも同じ時間になるようにしていました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答試験後は、論証の精度が低かったので、論証を覚える時間を増やしました。苦手な論証に付箋を貼り、それに絞って復習をしていました。本来は答案をフルで作成する時間を増やすべきでしたが、時間の都合上、答案構成にとどめることも多く、１日１通作成は必ずしもできていませんでした。

短期合格を目指す以上、合格ラインぎりぎりになると思っていたので、答練や過去問でできない問題があっても落ち込まずに、試験当日にピークを持っていけるよう心がけていました。

試験期間中の過ごし方

各科目での悪あがきの積み重ねで合格ラインにぎりぎり到達できれば良いと考えていたので、休憩時間にトイレに並ぶ時も論証集を持って復習をしていました。その時に見ていた論証が偶然試験に出た科目もあり、最後まで粘ってよかったなと思いました。他方、休憩時間に勉強しすぎても疲れるので、昼休憩では外に出て近くの大使館まで歩いてみたり、偶然やっていた蚤の市をのぞいてみたりしてリフレッシュしました。

晩御飯や就寝時間は普段通りを心がけました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

得意としていた実務科目には自信があった一方、他の科目での失敗によるダメージが大きく、ぎりぎり不合格かな、という手ごたえでした。その後、ざっくりとした自己採点をしてみましたが、何度やっても合格には届いていなさそうでした。そのため、論文結果発表で自分の番号を見つけたときは、ラッキーだと思いました。

合格した嬉しさを感じるより先に口述対策で頭がいっぱいになりました。

念のため口述試験に向けてホテルは予約済みだったのですが、試験会場まで移動する必要があったので、そのホテルをキャンセルしてより近いホテルを予約しました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

基本書や百選をほとんど使用せず、アガルートの教材に絞って勉強したことは短期合格をするうえで非常に重要だったと思います。勉強範囲を限定することで心理的にもすっき

りしますし、時間的にも効率が良いと思います。

また､早期に問題演習に取り組んだこともとても重要でした。問題演習も初めはほぼ｢読む｣ような形でしたが、数をこなすにつれ理解が深まり、解き方も分かるようになりました。

家族のサポートもあり、安定したメンタルで規則正しい生活を継続できたことは、勉強の量・質を確保するうえで大きく影響しました。

アガルートアカデミーを一言で表すと

最短ルート

受験生に対するメッセージ

口述試験を経て、①事案にどの条文を適用するのか、②その条文の要件・効果は何か、③要件・効果のうち、解釈が必要なものについて判例知識を使えるか、を六法を見ずに会話の中で言えることが、この試験のゴールなのだと感じました。そして、上記①～③を六法を参照しつつ文章で書けることが、論文試験のゴールなのだと思います。そのため、短答・論文の勉強の時から、条文の要件・効果は強く意識して勉強することをお勧めします（当然のことなのかもしれませんが、私はこのことをよく理解しないまま勉強していました）。

勉強方法について、ベストなやり方を求めて試行錯誤を続けるより、間違えた勉強方法をしないことの方が重要です。間違えた勉強法を避けることができているのであれば、ベストな勉強方法を追求することに時間をかけすぎないのが良いと思います。また、特に勉強を始めたての頃は情報の見極めができないので、SNSは見ない方がよいです。

教材は周回して初めて使える知識になると実感しました。短期合格を目標とする場合、基本書を１周じっくり読むよりアガルートのテキストと問題集を繰り返す方が実力が安定すると思います。私の場合、論文試験までは基本書を数回、参考にしたことがあった程度でした。百選はアガルートのテキスト内に掲載されているもので足りていたので、使用していませんでした。

最後に、勉強が思うように進まず、周りと比較して落ち込むことがあるかもしれません。しかし、様々な立場の人が受験する予備試験だからこそ、他人との比較（受験回数とか、地頭とか）に捉われず、自分が成長した点、できるようになった点に目を向けて、日々の努力を積み重ねてほしいなと思います。私はこの試験を通じて、法律知識以外の面でも成長できた点がたくさんあり、予備試験ルートを選択してよかったなと感じています。同じ道を目指される受験生の皆さんを、心から応援しています。

令和６年度

予備試験合格

合格の 90%以上はアガルートの講座によるもの

加藤 レオさん（20 代前半）

大学１年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

小学生の頃、「逆転裁判」というゲームで遊んだ際に、依頼人のために全力を尽くす弁護士の姿に憧れたのがきっかけです。また、私は誰かの上に立ってリーダーシップを発揮したり、自分の所属する会社の利益のために働いたりするよりも、ある特定の人や組織のために頑張るというスタイルの方が好きであり、弁護士という仕事が自分にあっていると思ったことも理由の一つにあります。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

私はあまり他の予備校等と綿密に比較したわけではなのですが、予備校を探している中でアガルートを知った際に、「最短ルート」を謳い、とにかく試験合格を目指し合格に必要なことだけを行うというアガルートのスタイルが自分にあっていると思い、選びました。また、講義のサンプル動画を見た際に、講師の話すスピード感がよく、この授業なら聞き続けられるなと思ったことも選ぶ決め手となりました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

アガルートの方針にもあるように、インプットよりもアウトプットを大事にするということを意識しており、初めの講義を見る段階では理解できない部分があったとしてもその時に深追いはせず、後の問題演習を行う中で身につけていく、というようにしていました。具体的には総合講義は倍速などでなるべく速やかに聞き終わらせ、その後は短答であれば過去問を、論文であれば重要問題習得講座と過去問をとにかくやるという勉強方法を採っていました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

私は大学生であったため、基本的に学習時間の確保は容易でした。平日は大学に行かなければいけない日は大学に行き、内職や空きコマの時間を使って勉強をしていました。土日など大学に行かない日は、私は自宅が最も集中できるタイプであったため自宅で勉強していました。自宅で勉強する日はなるべく食事の時間が長引かないようにすることを意識し、一方で食後に眠くなった場合などの昼寝は惜しむことなく行っていました。また、食事中や１日の勉強を終えた後の時間にはスマートフォンで動画などを見て息抜きをしていました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

まず短答の時は、過去問を解く、何回も間違った部分をまとめて見返す、条文素読をするという勉強をしていました。特に条文素読は直前期のみ行っていました。論文前は、過去問を解く、重要問題習得講座を周回する、論証集を読むという勉強をしていました。心構えについては、私は受験時に大学２年生であったため、今年落ちたとしてもまだ来年があるという風に過度に緊張しないようなマインドでいるようにしました。この心の持ち方が良いのかは定かではありませんが、緊張が減ったおかげで論文の時には比較的冷静に問題に向き合えたと思います。

試験期間中の過ごし方

特に特別なことはしていませんが、自分の中でひとつルーティンを作っていました。それは服装に関してなのですが、私は試験の時は必ずスウェットのズボンを履くようにしていました。楽な服装にすることでリラックスすることができ、肌触りも良いので落ち着くからというのが理由です。その他については至って普通で、朝ごはんはしっかりと食べ、休み時間は六法や論証集を読み、頭が疲れたと感じたらラムネなどで糖分を摂るなどを行っていたのみです。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答の時は、絶対に合格したとまでは思わなかったものの、いつも通りであれば受かっているだろうという手応えで、実際に合格発表を見たときは大きく安心するとともに想像よりも点数が高く驚きました。論文の時は、８月の前半が全く勉強のやる気が出ず、燃え尽きてしまっていたことや憲法・行政法の際に時間を間違えており、120 分で答案を書いてしまったことなどから、まず間違いなく不合格だと思っていました。そのため合格を知った時は喜びや安堵よりも驚きの方が強かったのを覚えています。しばらくたってから喜びが込み上げてきました。口述については、本番に対策が手薄になっていたところが出題されたため、手応えはありませんでした。もっとも、合格率がかなり高い試験ですので、受かっていることを祈るばかりでした。合格した際は安堵がもっとも大きく、それと同時に肩の重い荷が降りた感覚でした。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、春休みに頑張れたことだと思っています。夏休みはあまり勉強が手につかず、決して十分に追い込めたとは言えない状況でした。その中でも合格できたのは、春休みに長期間集中して勉強できていたことが大きかったのではないかと考えています。私は、追加の教材もいくつか購入したものの、その中心は全てアガルートの教材・講座でしたので合格の 90%以上はアガルートの講座によるものであったと言えます。その中でも特に影響したのはやはり重要問題習得講座です。この講座は合格のためには必要不可欠であったと思っています。

アガルートアカデミーを一言で表すと

一直線

受験生に対するメッセージ

予備校選びに不安になられている方もいるかもしれませんが、アガルートを選べば間違いありません！最短ルートで夢を掴みましょう！

令和６年度
予備試験合格

自分の信条に従って仕事がしたいと弁護士を目指す

小野 敬太さん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

自分は大学３年の最初まで就活をしていたのだが、さらに独立した形で自分の信条に従って仕事がしたいと思い、弁護士を目指すことを決めました。また、法律の勉強自体は好きだったことや弁護士の方からお話を聴き、仕事が楽しそうと思えたことも理由です。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

弁護士を目指すことを決めて独学で勉強を始めたものの、強制力がないため、挫折しました。友達は予備校に通っていたことから予備校に通おうと決意しました。自分は経済的に余裕があるわけではなく、価格が安いアガルートにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

自分は大学３年生の６月ごろ、つまり受験する短答式試験のほぼ１年前に学習を始めたこともあり、時間的余裕はありませんでした。また、サークルも最後の代でとても忙しかったため、無駄のない勉強をモットーに勉強をしていました。無駄のない勉強というのも、アガルートのカリキュラムのみをやるという非常にシンプルな作戦で、基本書や判例百選などは一切触れずに勉強を進めました。集中が途切れることも多々ありましたが、サークル活動や遊びでうまく気分転換してメリハリをつけられたことが長い目で見て非常に効果的だったと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

自分はサークル活動とゼミ活動で４年生になるまでは忙しく、学習を始めたのも３年時の春であったので、時間的余裕がない状態でのスタートを切りました。そこで、他の活動をしている時間以外はなるべく法律の勉強をするように努め、予備試験まで残り半年にな

るまでインプットを終了させようと意識していました。このように目標を明確に意識することで、集中力を上げ、活動以外の時間をすべて勉強時間に充てることで学習時間を確保しました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期は、メンタル的に厳しい状況に置かれることもあり、勉強の姿勢の組み方が非常に難しかったです。そこで、やるべきことを一日単位でスケジュールに組んで、それにのみ取り組むことで集中力及びメンタルヘルスを維持することができました。直前期は無心で必要なことだけを抽出して可能な限り多くの時間を勉強に費やすことが最も重要です。そのような心持ちをもつために徹底した自己分析とスケジュール作成をし、制度的に自分が集中できる環境を作り、本番に挑みました。

試験期間中の過ごし方

予備試験はメンタル維持が合格のために本当に必要な構成要素なので、試験期間中はメンタル維持を最優先事項として据えました。そこで、今まで必死に勉強してきた自分そしてアガルートのことを信じて試験期間中は家でも移動時間中でも一切勉強をしませんでした。しないと決め打つことで、今まで勉強を頑張ってきた自分をさらに信じることができるようになり、試験期間中では、非常に良い状態のメンタルを維持しながら試験に臨むことができました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答式試験と口述式試験は合格の確信があったのですが、論文式試験は試験直後には合格できたかは半信半疑くらいでした。もっとも、答えるべきところは答えられたし、試験時間中のタイムマネジメントも完璧にできたので、もしや受かっているのではという気持ちに徐々になってきました。しかし、その後は逆に自分は受かっていないのではという気持ちにかられ、合格と不合格の気持ちを交互していました。そして、受かった時に達成感はすさまじく、これまでやってきた自分の努力は間違っていなかったんだなと非常に喜ばしい気持ちになり、胸がいっぱいになりました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

振り返ってみて、１年と少しという短い期間で予備試験に一発合格できたのは、「時間的余裕がなかったこと」だったと思います。通常は時間的余裕がないことは合格のために進むにつれ、足を引きずる要因だと考えられると思うのですが、うまく利用すれば、合格のための重要な決め手になります。自分は時間的余裕がないことによりやるべきことを明確化でき、必要なことだけをすることで、最短の道を歩むことができ、予備試験に合格できたのだと思います。

アガルートアカデミーを一言で表すと

合格への羅針盤

受験生に対するメッセージ

予備試験は非常に難しい試験ですが、やるべきことに集中すれば絶対合格することができる試験だと思います！適度にメリハリをつけて合格へと一直線に進んでください！

令和６年度
予備試験合格

組織よりも専門家として働く方が自分にあっている

宮本 純和さん（30 代前半）【論文 54 位】

大学既卒

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

大学時代弁護士に憧れがあったものの、結局ロースクールに進学せず社会人となった。

社会人となった後、組織的な働き方よりも、専門家として働く方が自分にはあっていると考えるようになった。そこで、大学時代憧れていた弁護士を目指そうと思った。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

アガルートアカデミーを選んだ理由は金額が他の予備校と比べて安かったから。また、マネージメントオプションなどの個別指導も充実しており、サポートの幅も広かったことも理由の一つである。講師の年齢層も比較的若く最新の受験情報に詳しいと感じた。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

過去問を中心に勉強の方針を立てた。

勉強を始めた序盤は講義を聞いてインプットに注力した。講義が進んできた段階で短答の過去問と論文答案の「書き方」講座をやり始めた。短答は過去問を本番までに６周終わるように逆算して計画を立てた。短答は覚えるだけでなく理解することを心掛けた。論文答案の「書き方」講座が終わった後は重要問題習得講座に取り掛かった。そして重要問題習得講座が進んだ段階で、論文過去問を解き始めた。論文は試験までに過去問を１周は解けるように計画を立てた。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

私は専業受験生であったため、時間は自由に取ることができた。時間を自由に取ることができたとしても、実際に勉強ができるかは別問題であり、いかに集中して勉強することができるかが課題であった。私の場合は家で集中することができなかったため、図書館や

カフェなど外で勉強することによって、１日８時間くらいは勉強することができていた。まずは、勉強時間を確保し、確保した勉強時間に集中して勉強できるよう自分のペースを掴むことが重要である。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答の直前期１か月前は、短答の過去問を回すことだけに集中した。短答の総まとめを最後にする感じである。論文の直前期は書くことに慣れるため、１日１通は論文の答案を作成していた。そのほかは論文過去問の各年度の復習をしたり、重要問題習得講座を回すことで知識面を補強していた。口述の直前期は大島「法律実務、民事実務」、「刑事実務の定石」、「基本刑法」を中心に勉強していた。また、口述の過去問を勉強していた。口述の模試を複数回受けた。口述は喋る試験のため喋る練習をしていた。

試験期間中の過ごし方

短答の試験当日は早めに寝て睡眠をとろうと思ったが、前日寝られず、真剣本番はかなり眠たい中受けることになった。睡魔があるとパフォーマンスがかなり落ちるため、試験前日は勉強をほどほどにしっかり睡眠をとることが大事である。論文は１日目の前日は４時間くらいは寝ることができた、試験前日は試験の準備、１日目の後は疲れがあるためほとんど勉強できなかった。論証を確認するくらいであった。口述試験は試験が浦安にあり新幹線で移動が必要になるため、試験前日は早めにホテルに行き、試験会場を下見しておいた。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答試験については、試験当日から速報が出るため試験の問題用紙に自分の解答を記録しておくことで合否がすぐに分かった。論文試験は試験が終わって自分が合格しているかどうか全くわからなかった。論文が受かっていれば口述の勉強をしなくてはならないし、落ちていれば来年の勉強をしなければいけないが、受かっているかわからないため勉強が合格発表まで手につかなかった。振り返ってみれば論文に受かったときが一番嬉しかった。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手はすべての科目について理解を大切にしたことだと思う。私の場合は論証を暗記するということはなく、試験本番も論証を完璧に答えられる状況ではなかった。一方で論点について何故その答えになるかということについて理解していたため、試験本番で応用問題が出てきても原理原則から答えることができた。アガルートの講座は試験に大変役立った。試験に出てくる知識はアガルートの講座で十分だったと思う。あとは試験に慣れるため過去問を解いたり、理解を深めるため基本書を読むことは必要になる。

アガルートアカデミーを一言で表すと

試験を制すための武器

受験生に対するメッセージ

受かるかどうかはわかりません。でも、変わらない人生を続けるのではなく、試験という戦いに挑戦をする、その選択をすることが勇気ある行動であり素晴らしいと思います。試験に挑戦することを決めたなら後はやるだけです。頑張ってください。

令和６年度

予備試験合格

一般企業や自治体でフルタイムで働いていた

丸山 リチャード寛己さん（30 代前半）

社会人

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

これまで一般企業や地方自治体で働く中で、人々の間に立ちサポートするという仕事に携わってきました。今後のキャリアとして、特定の分野におけるプロフェッショナルとして依頼者をサポートできる人材になりたいと考え、その最たるものである法律家を目指すようになりました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

WebCMとラジオCMをきっかけに知りました。合格実績を見て、信頼できる予備校だと感じました。また、テキストや動画閲覧画面がシンプルで見やすく、勉強を継続できそうだと感じ、これが選んだ決め手となりました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

勉強の方針としては、とにかく論文式試験の合格答案レベルに合わせたアウトプットができるようになることを目標として、重要問題習得講座や過去問を周回しました。典型問題については脳内で答案構成ができるようになるまで繰り返し学習しました。初年度の論文式試験では惜しくも不合格だったので、勉強の方針は間違っていないと思いつつ、基本書等を追加して基礎知識で定着していないところを復習しながら重要問題習得講座を周回していきました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

フルタイムで働いていたため、平日は帰宅後２時間から３時間学習し、休日は６時間以上学習していました。通勤時間やお昼休みなどは、スマホから各講座のPDFで学習していました。決まった遊びの予定以外は、いつも学習時間にあてていたように思います。もっ

とも、集中が切れた後に勉強しても効率が悪いので、体調がよくない日等は最低限今日やりたいことを決めて、無理して長時間勉強しないようにしていました。そのおかげで、継続することができたと思います。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答直前期は、２週間ほど前から不安な分野に絞って過去問を解きなおしていました。短答本試験は、正誤が微妙な問題が来たら選択肢の組み合わせからもっともありそうな答えを選ぼう、くらいの気持ちで臨みました。論文直前期は、重要問題習得講座を総まくりすることと、過去問解析講座の参考答案の骨格を復習し、答案イメージを膨らませていました。本試験時はとにかくアドレナリンを出して、答案構成が終わったら迷わず書き続けることを重視して臨みました。口述試験直前は、他の受験生が使用している基本書等をとにかく見返し、周りに差をつけられないようにという気持ちで試験に臨みました。

試験期間中の過ごし方

論文式試験と口述式試験の１日目が終わったあとは、まずは体を休めることを重視しました。次の日もベストなパフォーマンスができるよう、普段と変わらない食事を食べ、好きな番組を見て、平常心で臨むことを心掛けていました。１日目の科目のことは振り返ってくよくよしていては、次の日に絶対に影響が出るので、たとえできていない箇所があっても、まあその他はできたし大丈夫！という楽観モードに切り替えていました。あとは、明日終わったら何食べようとかその次の日は学習をお休みして何をしようとか、楽しいことを考えていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答式試験は、一般教養科目が簡単だったこともあって、どこかの科目で 20 点を超えなくてもなんとか受かっているだろうという気持ちでした。自己採点で例年の合格ラインを大きく上回っていたので、不安はなかったです。論文式試験は、ネットにあがっている再現答案のレベルの高さに絶望していましたが、全力でやった結果なので不合格でも仕方がない、という気持ちでした。自分の番号を確認できたときは、人生で一番うれしかったです。口述式試験は、民事でかなり失敗してしまったのですが、刑事はよくできた感覚があったので、なんとか受かっているだろうと思っていました。合格発表を見たとき、長い戦いが終わったことで本当に安心したのを覚えています。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、アウトプット教材を重要問題習得講座と予備試験論文過去問解析講座、旧司法試験論文過去問解析講座にしぼったことです。可処分時間の関係からも、手を広げすぎても記憶が定着しないことは想像できたので、とにかく網羅的に、典型問題で周りに差がつけられないように、という気持ちで淡々と繰り返しアウトプットをしていたことが本番でも活きたと思います。あまりネット上のこうすれば合格するという体験談を信じすぎず、愚直に勉強量を増やしていくことで、多少失敗してもカバーできる実力がついたの

だと思います。

アガルートアカデミーを一言で表すと

人生を大きく変える一歩をサポートしてくれる予備校

受験生に対するメッセージ

正しい方法で努力を継続すれば、なんとか受かる試験です。無理せず淡々と、日々の努力を続けてください。

令和６年度

予備試験合格

強い情熱があれば凡人でも合格できる

村瀬 裕矢さん（20 代前半）

大学２年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

高校３年生の夏に、「18 歳までに知っておきたい法のはなし」という本を読み、法律って自分に合いそうだなと思ったこと。私は理系に向いていないということは自覚していたので、文系のトップといわれている法曹ならいけるのではないかと考えた。また、将来会社員や公務員として働くのは自分には合いそうにないと感じていた。元々負けず嫌いの性格もあったため、それと以上の理由から弁護士を目指すことにした。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

一番大きな理由は、低価格かつ講義や教材の内容に充実性・信頼性があること。私は経済的にあまり余裕はなかったのだが、安ければ何でもよいというふうには全く考えていなかった。アガルートは安価でありつつ、合格実績も豊富だったため、アガルートを信じてやれば合格できると思い、講座の申込みを決めた。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

予備試験の最大の山は論文試験であるため、かなりの比重を論文試験にあてた。まずは総合講義を聞いて基本七法の全体像をつかむことに注力した。その後はひたすら重要問題習得講座の問題を解いていた。私は大学受験を経験しておらず、どのような勉強方法が効率的なのかを把握することがとても難しかった。周りにも予備試験受験生はおらず相談したりすることもできなかった。なんとかやっていく中で自分で考えるしかなかった。ある程度問題が解けるようになってきた段階で予備試験の過去問にも着手した。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

大学生だったので時間は十分あった。私の大学はあまり偏差値の高い大学ではなく、単位を取得するのも正直簡単だったので、時間を捻出することに苦労はしなかった。大学のある日であれば空きコマに大学図書館へ行って予備試験の勉強をしていた。大学のない日

は家で勉強することが多く、１日のほとんどを勉強時間にあてていた。朝は９時から 10 時ころに起きることが多く、１時間半ごとくらいに 15 分ほど休憩していた。昼食は 13 時や 14 時に食べることが多かった。夜の 10 時には勉強は終えていた。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期はほとんど司法試験の過去問を解いていた。なぜなら、司法試験で求められることが予備試験で求められることと共通しており、採点実感には採点官からの大事なメッセージが書かれているからである。具体的には、だいたい各科目５年分以上は答案構成をする形で解いた。起案は時間がかかるため答案構成にとどめた。心構えとしては、事実から出発すること、条文・判例を大切にすること、わからない問題は趣旨から考えて規範を定立すること等を持っていた。

試験期間中の過ごし方

１日目の論文が終わった後は、最高のコンディションにもっていくためにサウナに入ってリラックスした。その日の夜もそれなりに睡眠をとることができ、２日目も良いコンディションで臨むことができた。試験時間の合間にはたくさん書き込みをした論証集を確認していた。昼食といえるような昼食はとらず、ゼリーやバナナを少しだけ食べるにとどめた。そうすることで午後の集中力も落ちることはなかった。この期間までくれば、あとは本番で実力を発揮するためのコンディションを整えることが重要だと思う。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

試験直後は自分のことを冷静に見れていないこともあって、合格したかもしれないと浮かれていた。しかし、自己採点で自分の答案の粗がどんどん見つかり、合格している確率は高くても 30 パーセントくらいだろうと予想していた。それだけに、自分の番号を見つけた時は思わず泣いてしまった。いままでやってきたことがやっと報われたのかという気持ちでいっぱいだった。もっとも、その後すぐに口述試験に対するプレッシャーがのしかかることになった。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

重要問題習得講座が一番の決め手だと思う。予備試験では、特に穴を作らないことが重要だと思っているから、網羅的に論点を扱っている重要問題習得講座はまさにうってつけの教材だと思う。また、問題を解くことによってインプットの機会を作ることができ、これによりインプットの効率も高まった。アガルートのテキストには他のテキストのページも記載されており、情報へのアクセスがしやすい点も、余計な手間を省いて勉強の効率性を上げることに役立った。

アガルートアカデミーを一言で表すと

予備試験合格への特急列車

受験生に対するメッセージ

予備試験は法曹になるという強い情熱があれば凡人でも合格できる試験です。私がこれを証明できたと思います。

令和６年度
予備試験合格

子どもたちが寝静まった夜中に勉強

須藤 龍之介さん（30 代前半）

社会人

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

元々、法律を勉強することが好きだったため、最初は趣味の一つとして予備試験の勉強を始めました。10 年くらい勉強していれば司法試験にも受かるだろう、という気軽な気持ちでした。

現職での職歴を重ねるにつれ、自分自身の強みをさらに強くしたいと思い、家族の協力を得ながら、司法試験突破を本気で目指すようになりました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

一番は価格の安さです。私が受講したカリキュラムは、大手の予備校より遥かに低廉だったと記憶しています。また、「総合講義 300」は、300 時間ですべての講義を聞き終えることができるとのことだったので、勉強に割く時間があまりない私にはうってつけだと思いました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

まずは、総合講義を聞き終わること、次に、重要問題習得講座を複数回演習すること、最後に論証集を理解した上でしっかり記憶することです。

総合講義は、聞いていて理解できない箇所は多々ありましたが、簡単に印をつけて、とにかく先に進むことを心掛けました。重要問題習得講座の演習はいくらか進んだ時に、ふと印をつけた箇所を見返すと、「なんだ、そういうことか」となぜ分からなかったのか分からない、ということも多々ありました。

過去問（予備試験・旧司法試験）は一通り演習してはみましたが、重点を置いていたのはやはり重要問題習得講座です。論文式試験の際は、直前まで重要問題習得講座を演習するとともに見返していました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日日中は仕事のため、机に座って勉強できるのは朝か夜だけです。

朝が苦手なので、基本は子どもたちが寝静まった夜中に勉強していました。

あとは、往復２時間の通勤時間をフル活用していました。ご経験のある方も多いかもしれませんが、机にじっと座って勉強しているより、歩きながら、あるいは電車に揺られながらの勉強の方が捗りました。具体的には、歩きながら論証集を聞き、聞いたことを声に出してみる（マスクをしながら小声で)。電車内では、紙の論証集の暗記をしていました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答：３回目の受験だったため、全問題を１周した上で間違えた箇所を解き直しつつ、何度も間違えているところはノートにまとめて、直前期に見返していました。

論文：論証集の暗記と重要問題習得講座の周回です。一つの科目を集中的にやるのではなく、科目を分散させて勉強する方が記憶が定着しやすいと思われるため、おすすめです。

限られた時間のなかなので、重要問題習得講座を 100%完璧にすることは難しいと考えていましたが、論証集は 100%にしようと思っており、実際、それに近い状態まで持って行けたので、本試験でも「まあ大丈夫だろう。書くべきことを書こう。」という心持ちでした。

試験期間中の過ごし方

２日間ある論文試験について記載します。

１日目の試験の後に２日目の試験勉強に数時間は割けると目論んでいましたが、無理でした。せいぜい論証集を見返すくらいしかできません。

無理に勉強時間を捻出するくらいだったら、しっかり７～８時間睡眠を確保する方がよっぽど有用だと思います。

これまでの学習の蓄積があるので、１日目の試験が始まった段階で勝負がついていると考え、１日目が終わったらしっかり食べて、しっかり寝ることが重要です。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

論文式試験が終わった時は「やるべきことはやったし、後悔は全くない。たぶん大丈夫だろう。」という手ごたえでしたが、再現答案を作成していてあれこれ書き漏れていることに気づき、特に、民事実務がボロボロだったので、合格発表の時まで心が全く落ち着きませんでした。

合格したときは自分の努力が報われたという何物にも代えがたい喜びでいっぱいでした。家族の協力もあって最後まで受験することができたので、その喜びを家族ともすぐに共有しました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

論証集を理解した上でしっかり暗記する、これに尽きると思います。

当たり前のことですが、この当たり前をできていない受験生が多いと思います。私も最

初の論文式試験は論証集の暗記レベル50%程で臨みましたが、それでもあと20点ほどで合格というところでした。

論証集の「使い方」は、論証の読み上げ及びその解説をmp3で提供くださるので、何か作業しながら、通勤しながら、の「ながら」学習に最適です。司法試験を目前に控えるいまも毎日聞いています。

アガルートアカデミーを一言で表すと

難関資格の最短ルート

受験生に対するメッセージ

覚えるべきことを覚えることが大事だと思います。

覚えることは大変ですし、2、3日経つと忘れていて嫌になってしまうのはよく分かりますが、これを怠らないだけで他の受験生にぐっと差をつけられます。

忘却曲線に沿って暗記してみる、隙間時間に耳で覚えてみる、など、ご自分にあった工夫で暗記を頑張ることが結果的に早い合格につながると思います。

令和６年度
予備試験合格

アガルートは予備校のあるべき姿、理想像

前田 颯月さん（20 代前半）

大学２年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

私が法曹を志した理由は法律の面白さに強く惹かれたことです。高校の法学入門の授業で、民法 94 条２項と 96 条の第三者要件の違いやその立法趣旨を学び、高揚感を覚えたことがきっかけでした。その後、大学での学びを通じて複雑な論点や実務的な問題に触れるたびに喜びを感じ、得た知識を依頼者の利益のために活かしたいと考えるようになりました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

アガルートアカデミーを選んだきっかけは、①価格の安さ②講座の合理性の高さ③質問制度の充実④テキストの良さにあります。

①については、他の予備校では 100 万円以上のものもありますが、勉強を始める前は自分の法律の勉強への適性や予備校の相性などどうしてもわからない部分があります。そのため、100 万円未満の値段設定はありがたかったです。

②については、総合講義 300 を体験で聞いたのですが、説明が分かりやすく、また２周学ぶことができるという部分、深く説明し過ぎず、網羅性とスピードを重視しているところがとても素晴らしいと思いました。

③については、質問をいつでも対応してくれる制度（一部のカリキュラムのみ）があり、安心して勉強ができるだろうと思いました。

④テキストがフルカラーであり、視覚的に楽しく学べますし、他の講座との連携もよく、値段以上のテキストの仕上がりだなと思いました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

挫折はほとんどしませんでした。アガルートに入った際に交付されるスケジュール表よ

り早く進める、という目標のもと、愚直に講座を進めていきました。他の受験生と同じでは受からない試験だと分かっていたので、自分の目標はアガルートの予定表より常にリードして進める、というものでした。例えば、予定表では1か月で商法の総合講義300を受け終わるというカリキュラムになっているところを20日で終わらせる努力をしました。

最初はわからなくてもとにかく進めようという方針のもと、分からなくても戻らない、前進あるのみ、ということを意識して勉強しました。

また、科目数が多いので、全ての科目を終わらせてからまた帰ってくる頃にはすべて忘れてしまっている可能性があったため、常に3科目か4科目を同時に勉強している形にしました。例えば、民事訴訟法の総合講義を受講しつつ、商法の重要問題習得講座を受講し、隙間時間は民法の短答過去問解説講座を進める、という具合です。

また、なるべく重要問題習得講座と短答過去問解説講座は周回しようと決め、正確性よりも回数を重視しました。短答過去問解説講座は本番までに4周程度、重要問題習得講座は7周くらいできたかなと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学習時間ですが、大学生であることもあり放課後や休日をフルに活用しました。バイトやサークルもありましたが、勉強中心の方針で日々を過ごしました。特に意識したのは隙間時間の活用です。電車の移動中は常に短答の勉強をしたり、寝る前に論証集の「使い方」講座を聞いたりと工夫しました。

一日の過ごし方ですが、私は大学の授業も欠かさず出席していたため、平日はなかなか多くの時間を取れませんでした。他方、休日はバイトや友人との遊び以外の時間は勉強に費やしました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答式：直前期はとにかく間違った問題を繰り返すことと、条文の素読です。特に民法や刑事訴訟法、商法、行政法等は条文がそのまま出るものもあり、条文の文言をなんとなく押さえておくことが重要だと考えました。

論文式：直前は答案用紙に書いている時間はないため、答案構成→答え確認を繰り返しました。直前に焦って勉強に手を広げることはせず、今までやってきた基本問題集（重要問題習得講座）を繰り返し勉強しました。

口述試験：口述試験では市販の教科書を中心に勉強しました。と言っても、短答や論文の知識がないと話にならないため、復習用にアガルートの講座も利用しました。

試験期間中の過ごし方

短答式：試験中ということで言うと、私は短答の知識をすべて六法に一元化していたため、六法をずっと見返していました。知識は条文に紐づけて学ぶと効率がいいし、試験直前にいろいろな教材を見る必要もなくなるという利点があります。

論文式：論文式試験では論証を押さえていないと不安でしたので、試験期間中及び合間の時間ではとにかく論証集の暗記をしました。論文式試験は時間との戦いでもあるた

め、なるべく考えなくていいところは考えないことが望ましいです。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

受験後の手ごたえですが、短答については受かったと感じていました。民法はわからない問題がなく、結果も満点でしたが相当自信がありました。一方、憲法や行政法は出題形式の特色もあり、あまり自信がありませんでした。合格した時はうれしい反面、これから論文式試験という最難関の目標が待っていると思い、つらくもありました。

論文式試験は各科目の自信はあったものの、字がつぶれてしまったり、裏表逆に書いてしまったりとやらかした点もあり、それによって落ちるかもな、と考えていました。そのため、自分の中では７対３で落ちたと思っていました。受かった時は一番うれしかったです。正直、落ちたと思っていた分驚きが大きかったです。

口述は受け答えがうまくできたため、自信がありました。結果が出たときもほっとしたという感覚の方が大きいです。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は「重要問題習得講座」と「短答過去問解説講座ＩⅡ」であったと思います。この二つは私の中では両輪として機能していて、いずれが欠けていても落ちていたのではないかと思います。まず、前者ですが、前述したとおり、各科目７周くらいしました。そのため、テスト本番では、「あ～この論点ね」と落ち着いた気持ちで臨むことができましたし、私が知らないことは他の受験生も知るわけがない、という自信をつけさせてくれました。

後者については、短答だけでなく、論文にも活きました。プロの講師が自分の言葉でかみ砕いて説明してくださり、また、知識の重要度・論文との関係なども解説してくださっていて、「自分が今何を何のために学んでいるか」を把握できます。

アガルートアカデミーを一言で表すと

長年の司法試験・予備試験予備校の答え、あるべき姿、理想像

受験生に対するメッセージ

アガルートアカデミーは合格のために必要な、ノウハウ･網羅性･正確性がすべてそろっています。あとは合格に必要なのはあなたの「やる気」だけです。あたりまえのことですが、他の方々と同じレベルで漫然と講座を受けているだけでは受かりません。数パーセントの合格率を勝ち取るには、常に勉強法を工夫し、自分の理解とやり方を模索していくことが重要になります。受け身の姿勢から自分で勝ち取る気持ちになった時、その気持ちを無駄にしない体制をアガルートが整えてくれます。あとは、あなた次第です。

令和６年度
予備試験合格

アウトプットこそが最高のインプット

小林 一基さん（20 代前半）

法科大学院生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

学部４年次に環境法のゼミに参加し、そこでアスベストに関するゼミ論文を執筆いたしました。その中で、アスベストを切り口に多様な法律の適用可能性を認識し、目新しい面白さを感じました。したがって、様々な法律の適用可能性の検討が求められる、法曹を目指すことといたしました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

学部４年８月から学習を開始し、ローの既習試験に全落ちし、数か月の学習でしたが、独学での限界を感じていました。そこで、予備校を探し、複数の予備校の資料請求をしたうえで比較をしました。その結果、当時、アガルートがもっとも費用が低廉で、テキストもわかりやすそうだったので、こちらを選ばせていただきました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

インプットばかりに意識が向き、アウトプットを全く行わなかったため、既習試験は悲惨な結果に終わりました。そこで、アガルートアカデミーの講座を受講してからは、アウトプット中心の学習を行いました。重要問題習得講座でアウトプットをしていく中で、知識の定着が図られていくことを実感し、アウトプットこそが最高のインプットであることを実感いたしました。予備試験・司法試験では事例問題が出題されることからすれば、事例検討の中で知識の定着･インプットを図っていくべきであるとの意識のもと、アウトプットを積極的に行っていました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

専業受験生なので、時間は豊富にあったと思います。ただ、法科大学院未修１年次は、予習・復習に多くの時間が割かれるところ、私は割り切って、予習復習を切り捨て、アガルートの講座の受講に多くの時間を費やしました。また、遠方通学をしていたので、通学

時間は必ず論証集の「使い方」講座を電車内で受講し、時間を有効活用していました。

法科大学院の期末試験１週前は、その試験対策に充て、試験が終了次第、すぐにアガルートの講座に戻るという形で進めていました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期に近づくにつれ、手を出す範囲を減らしていました。

短答は、２週間前からは、過去問の中でも、自分が複数回間違えた問題の演習と六法の見直しのみをするようにしていました。論文は、１週間前までに重要問題習得講座を解き切り、１週間前からは論証の見直しと、苦手な重要問題習得講座の問題のみに集中して、知識の点検に努めました。

直前期は、精神的につらいときもありますが、普段通りの生活を継続することと、法科大学院に行き、友達と話すなどして、精神的に安定させるように意識しました。

試験期間中の過ごし方

直前期に論証の見直しをし、そこで覚えきれていない箇所に付箋をし、試験前にそこだけを繰り返し確認するようにしていました。本番は、周りは全く見ず知らずの人ばかりで緊張し、思ったより集中して勉強するのが難しいです。本番直前に焦らないように、直前に何をするのかを予め決めておき、それだけしか見直すことはしないという意識で臨んでいました。

人は直前で見たことをほとんど覚えていないとの話を聞いたことがあったので、あきらめて、苦手分野の見直しにとどめていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

いずれも初受験だったので、短答も論文も感触はよくわからなかったのが本音です。合格率という点では、いずれも 20%ほどなので、落ちていても仕方がないとの心境でした。ただ、私は法科大学院２年でして、来年いずれにしても在学中受験ができるという心持ちから、そこまで試験の結果に思い悩むことはありませんでした。

論文式試験合格発表で自身の番号を確認した時は本当に嬉しかったです。法科大学院不合格を多く経験していたので、アガルートを経て、自身の成長を実感し、大きな達成感を得ました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、重要問題習得講座です。重要問題習得講座を繰り返し演習し、ここに載っている論点については、ひと通りのことは書けるようになるとともに、問題提起、あてはめの仕方を体得しました。論文式試験では重要問題習得講座に載っていない論点も出題されましたが、重要問題習得講座を参考に導くことができました。

論文問題集は市販の物はいくつかあります。しかし、いずれも解説が不十分であったり、解答例が付いてないものがほとんどですが、重要問題習得講座はこのいずれも記載されており、論文式試験の対策を十全に行うことができました。

アガルートアカデミーを一言で表すと

司法試験予備校の決定版

受験生に対するメッセージ

予備試験は合格率だけを見れば、合格できないのではないかと不安に感じる試験だと思います。ですが、受かってしまえば、何でもない試験です。自分を信じてがんばりましょう！

令和６年度
予備試験合格

バイトや遊びでうまく勉強できないことも

井本 雄大さん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

中学生の時に弁護士の先生が学校にお話をしに来られ、その方は弁護士と一級建築士のダブルライセンスだったのですが、資格を利用して専門的な立場から依頼者に貢献しているというお話を伺い、そのように自分の専門的知識を活かして付加価値の高い仕事ができる弁護士という仕事に憧れを抱いたのがきっかけです。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

司法試験の対策を開始するにあたり、効率よく学習を進め大学在学中に合格したいという理由から予備校の講座を活用することにしました。司法試験予備校について何も知らない状態だったので、大手を使った方が安心だと思い、他校かアガルートに入ろうと考え、オンラインの教材が充実していること、何より価格が安いことを決め手としてアガルートに入塾しました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

大学生なので、時間が比較的あるため、空いた時間にどんどん講座（総合講義や重要問題習得講座）の受講を進めていき、大学３年生の際の予備試験に合格する方針で学習を始めました。もっとも、大学での遊びやサークルが楽しく、ついつい勉強時間が減ってしまうことも多く、結果として総合講義やそれに続く論文学習の進度が遅れてしまい、大学３年生での予備試験では短答こそ受かったものの、論文で不合格となってしまいました。一方で、講座を中心に勉強しており、方針として大きく間違えた勉強をしていなかったため、大学４年生の予備試験では合格をすることができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

大学生で時間はある方だったので、暇な時間には基本的に勉強する方針でどんどん講座を進めていました。もっとも、バイトや遊びの予定が入っている日にうまく勉強できないことも多く、なかなか勉強時間が伸びない時期もありました。このままではダメだと思い、メリハリを意識するようにしてからは勉強時間が極端に少なくなることも減りました。時間帯としては午後や深夜の時間帯を中心に勉強していました。夜型なので、夕食後、午前の２時や３時まで勉強していることもありました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期は、これまでやってきた教材を復習する形で勉強していました。それで足りるのか不安になる気持ちも分かりますが、何か教材を足したりするのはかなり悪手だと思います。私の場合、これまで周回していた重要問題習得講座をもう１周し、論証集も読み込んで論点の網羅に努めました。２年目の受験に関しては論文模試を受験しました。費用は掛かりますが、本番と同じスケジュールで周りに人がいる環境で問題を解けるので良い練習の機会だったと思います。

試験期間中の過ごし方

試験期間中は、まず前日までにしっかり当日の会場への移動方法を確認し、持ち物の準備をするようにしていました。また当日は試験の合間に休憩時間があるので、その際に勉強する教材を持っていくようにしていました。論証集などコンパクトで網羅的なものが良いと思います。食事については食べ過ぎると眠くなってしまうのでその点は気をつけるようにしていました。会場によってはトイレが少ないこともあるので余裕をもって済ませるようにしていました。何よりも重要なことは、前の科目で思い通りできなかったとしても落ち込む必要はなく、しっかり切り替えることだと思います。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答式試験は問題なく通過している手ごたえでした。論文式試験については個人的に試験問題が昨年度よりかなり難しかった印象で、手ごたえも全くなく、試験後は不合格を覚悟しました。一方でそれでも 800 位落ちだった昨年よりはできている印象だったのでもしかしたら合格しているかも、とも思っていました。もっとも、合格発表ページで自分の番号を見つけた際には意外な気持ちでいっぱいで、「え？」というのが第一声でした。その後、番号を確認し直し、番号があることをもう一度確かめてからは、嬉しさと達成感で充たされました。口述試験については初受験だったので手ごたえが分からない部分も多かったのですが、少なくとも刑事で 59 点がついていることはないだろうと思っていました。最終合格を知った際は安堵の気持ちでした。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、月並みではありますがコツコツと勉強を重ねたことだと思います。アガルートのカリキュラムに沿って勉強するのであれば、基本的に勉強方針が大きく誤った

方向に行ってしまうことは少ないと思います。実際に自分も基本的にカリキュラムに沿って勉強し、アガルートのカリキュラム以外では公法で少し基本書や演習書を足したくらいでした。あとはいかに自分を律して、勉強をコツコツ積み重ねていけるかに大部分はかかっていると思います。

アガルートアカデミーを一言で表すと

迷える羊のような法律初学者の自分を合格へ導いてくれる、羊飼い

受験生に対するメッセージ

予備試験の勉強は辛いこともかなり多いと思いますが、その分合格を果たした際の達成感はひとしおです。健闘を祈ります。

令和６年度

予備試験合格

アガルートは超効率的予備校

紀本 千里さん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

中学の頃にドラマなどを見て、「弁が立ってかっこいいな」という中学生なりの憧れを抱きました。そこで、司法試験勉強の余力を残すべく、大学へ内部進学できる高校を選択し、大学に入ってから法律を本格的に学び始めました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

当時、ネットなどで他校とアガルートが合格実績の面で評価が高く、どちらにするか迷っていました。そして、アガルートの方が短期合格を売りにしていると感じたこと、テキストがわかりやすいことから、アガルートにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

始めは１年合格を目指し、１日６時間くらいやろうと思っていました。しかし、それが続いたのは総合講義 300 の半分くらいまでで、一気に失速してしまいました。１年目の春休みはほとんど勉強せず、短答の勉強も一切しないまま本番を迎え、落ちました。今思えば、直前で短答に間に合わせようとして、それなのに落ちるというパターンが怖かったのだと思います（勉強意欲が完全にそがれそうで）。２年目は重要問題習得講座（基本的に答案構成のみ）と論証に絞って勉強したことで、気持ちを保つことができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学校のある日は通学時間と休み時間を使い、それでも勉強時間が作れない時は授業中にやっていました。休日（直前期）は、朝７時に起き、午前中５時間、午後は 14 ～ 19 時の５時間で計 10 時間のうち、６～７時間やっていました。夜はアニメを見るなどして、次の日のモチベーションを保つようにしていました。直前期以外は、気が向いたら勉強するくらいでやっていました。長期戦は確実なので、いかに途中で嫌にならないかということを意識しながら取り組んでいました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

短答直前はひたすら過去問を回していました。短答過去問を回している時間は、不思議と何時間やっても辛くならず、毎日７～８時間くらいのペースでやっていました。

論文直前はロースクール入試があり、その勉強をしていたため、過去問に着手することができないまま本番を迎えてしまいました。ローの受験期ということで、自然と６時間くらいの勉強時間を確保できていました。

口述の直前は、空き時間すべてをささげるくらい勉強しました。

試験期間中の過ごし方

試験期間中は、①前日のことは考えない、②いまさら無理しても結果は変わらない、③試験本番では最後まであきらめない、④早く寝るを意識していました。また、会場では休み時間のたびにウイダーインゼリーで糖分を補給し、「しっかりと頭は回るはず」という気持ちで臨んでいました。電車移動は、その日だけはグリーン車を使い、なるべく余計な負担がかからないようにしました。また、試験直前は当該科目の論証集を早読みし、脳みそを切り替えていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答は、民事･公法を終えて、多分落ちると思っていましたが、刑事がかなりでき、ひょっとしたら受かるかもという感じでした。自己採点をしてみると、民事・公法も思ったより耐えており（絞り切れなかった肢も割と当たっていた）、合格したかなと思いました。

論文に関しては、自信はみじんもありませんでした。1200 位くらいなら来年合格が狙えそうかなと思っていたので、合格を知った時は「え？受験番号間違えた？」という感じでした。

口述は「多分受かったと思うけど、一応落ちる筋は残されているから不安」という感じで、合格時は人生で一番喜びました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

論証集×重要問題習得講座が決め手だと思います。論証集を何度も周回し、同時並行で重要問題習得講座を進めました。重要問題習得講座は、時短のため答案構成のみを行い、解答は読むだけにしていました。そして、解答を読む中で、論証がどのような形で展開されているか（どの理由付けが欠かせないのかなど）を理解し、再現できるようにしていきました。起案を最小限にして時短をしたことは、比較的少ない勉強時間での合格につながったのではないかと思います。

アガルートアカデミーを一言で表すと

超効率的予備校

受験生に対するメッセージ

自分が論文合格までに使った教材は、ほとんどが論証集と重要問題習得講座だけなので、

その２つをひたすら極めたら合格が近づくと思います。

令和６年度

予備試験合格

フルタイムで働く社会人、法学初学者

Ｙ．Ｓさん（30 代前半）【論文 20 位】

社会人

受講していた講座

重要問題習得講座、総合講義 100、論証集の「使い方」、国際公法 / ３講座パック、予備試験 口述試験対策講座
予備試験 論文過去問解析講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

「重要問題習得講座のネット上での評判が良かったから」というのが理由です。私は法学初学者であり、司法試験受験生や合格者、法曹の友人もいなかったため、主にネットやSNSで情報を収集していました。その中で、多くの合格者が重要問題習得講座をやりこんでいることがわかり、またそのいずれも同講座を絶賛していたため、アガルートの受講と重要問題習得講座をやり込むことを決めました。

合格体験記・学習上の工夫

学習で工夫したことは、３点あります。

第一に、やるべきことを絞り込み、やると決めた教材を徹底的にやり込むことです。私はフルタイムで働く社会人であり、法学初学者、さらに内部進学で育ったため受験勉強を中学生以来やったことがありませんでした。そうした時間的制約がある中では、やることを絞り込むことが必要です。また、自身の受験技術やセンスといった点も頼りにならないため、繰り返しによる習熟だけが本番で勝負できるポイントとなります。そこで、絞り込んだやるべきことを徹底的にやることに決めました。そしてその対象は、重要問題習得講座と過去問でしたが、その選択は正しかったと思います。

第二に、自身の課題・弱点を明確化し、それと向き合うことです。特に過去問演習の段階では、自分の実力不足（明後日の方向に答案を書いてしまう等）や初歩的なミス（問題文の見落とし、読み間違え等）の連発でした。そうした自分の課題や弱点を明らかにすることは精神的な負荷のかかることですが、私は「反省・改善ノート」を作り、過去問起案を通じて明らかになった自分の答案の問題点や反省点を書き込むとともに、自分なりにその原因を分析し、今後それを改善するためにやることを言語化していました。このように書くと大袈裟に聞こえますが、一例を挙げると「論ずる必要がないと問題文に記載のあっ

た詐欺罪を書いている→刑法は年度ごとに設問部分に大きな変化がないのであまり読んでいなかった→今後設問部分から読み目立つ色でマークする」など初歩的なものが多数です。辛い作業でしたが、これを続けた結果、試験本番には、それまでに課題として認識し、改善を試みた自分の悪癖があまり出ることはなく、高い評価をもらうことができました。

第三に、これは「工夫」と言えるものではないかもしれませんが、たとえ学習をしない期間が長くなってしまっても、勉強を「再開」することです。社会人受験生の多くは、繁忙期の到来などで勉強をするのが難しい期間が生じると思います。そうした中でも少しずつ学習を継続できる方もいらっしゃると思いますが、私は仕事モードになると勉強に全く手がつけられなくなってしまう人間でした。その結果、何度も勉強を中断しましたが、その中断した数だけ勉強を「再開」したことが合格できた理由だと思います（当たり前ですが…）。中断期間が長くなるほど、中断以前の自分の実力と比べて実力が低下していることを実感させられ、特に再開直後の勉強は辛いものとなります。しかし、私のような継続をすることができない社会人は、継続力と同時にそうした再開力も重要であると思います。

令和６年度
予備試験合格

子育てとフルタイム勤務を両立しながらの受験

A．Kさん（30代前半）

社会人

受講していた講座

経済法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム マネージメントオプション、経済法 / 重要問題習得講座
短答式試験「重要トピック攻略講座」、予備試験 口述試験対策講座、過去問から学ぶ「当てはめの作法」
採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座 / 実践編、耳で覚える重要項目300・１問１答
判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

私は、法学部を卒業してから10年以上経つ社会人です。現在は、法律とは無関係の仕事をしています。

学生時代、法学部に在籍していたものの法律にあまり興味を持てず、法曹を目指してはいませんでした。しかし、子供が生まれ、育休から復職した際、コロナ禍の影響で在宅ワークが続く中、単調な日々に漠然とした将来への不安を感じるようになりました。

フルタイムで復職したものの、出社の必要がなくなったことで、自分の将来についてじっくり考える時間が生まれました。そんなある日、社会人から法曹を目指して活躍されている方の情報を目にし、「社会人でも法曹を目指せるんだ」と知った瞬間、いても立ってもいられず、すぐに予備校を探しました（法学部出身だったため、独学では難しいことは理解していました）。

現在はオンライン予備校が多数あることに驚きました。私は、学生当時、友人が他校の白黒印刷かつルーズリーフ型の大量の資料を持ち歩いているのを見ていたので、他校に少し抵抗感を持っていました。また、社会人であり、法律の知識もほぼゼロに近い状態だったため、直接指導を受けられることが必須だと考えていました。

そんな中、アガルートアカデミーの１年合格カリキュラムが「マネオプ付き」で販売されているのを見つけ、「これしかない！」と受講を決意しました。

合格体験記・学習上の工夫

まず、カリキュラムのスケジュールに従い、「総合講義300」を民法から順に視聴しま

した。動画講義ではテキストを２周することになりますが、当然ながら最初の段階ではどの科目も意味不明な状態でした。

そのため、全体像を素早く把握することを目的に、総合講義を視聴したらすぐに「重要問題習得講座（重問）」に取り掛かりました。

私は、重問を「問題集」というより「論証集の肉付け版」と考えています。どの科目も主要な論点は重問で網羅されているため、論点の見つけ方や論じ方を学ぶうえで、重問を何度も周回することが効果的でした。

民法の講義を視聴し終えたタイミングで、「マネージメントオプション（マネオプ）」が始まりました。マネオプでは、毎週２通の論文添削に加え、質問シートを通じて講師の方に質問できる仕組みがあり、積極的に活用しました。

このおかげで、「毎週２通の論文を書く」というルーティンが確立できたことは大きかったです。また、どの先生も質問に対して真摯に対応してくださり、説が多数ある論点についても「採るべき説（書きやすい説）」や「深掘りの適切な範囲」を示してくれたため、無駄なく効率的に学習を進めることができました。

私は一般企業の社会人であり、法曹関係者と接する機会がほとんどありません。マネオプの講師の多くが実務家であったため、法律を使った仕事についても質問できました。これにより、自分が向かう世界への理解を深めるとともに、法曹という職業に対する憧れを持つことができたのも良かった点です。マネオプでの出会いは、アガルートを選んで正解だったと感じる大きな理由の一つです。

私は子育てとフルタイム勤務を両立しながらの受験だったため、時間の確保が最大の課題でした。

特に、子供はまだ小さく寝付きも悪かったため、主に勉強時間を確保できたのは仕事の合間か、深夜（23時～２時）でした。寝かしつけの際にそのまま寝落ちしてしまうことも多々ありましたが、学生と違って若くない分、「１年でも早く合格しなければ損失が大きいし、家族に迷惑をかける期間も長くなってしまう！」と自分を奮い立たせ、机に向かいました。

結果として、１年目に短答試験を通過し、２年目に論文・口述試験を突破して最終合格を勝ち取ることができました。

予備校選びに迷う方も多いかと思いますが、アガルートには法律学習に必要な講座がすべて揃っており（しかも他校より安価）、迷っている時間があるなら、一日でも早く受講を決めて学習をスタートすることをおすすめします。

令和６年度

予備試験合格

家族の介護とアルバイトをしながら勉強

Ａ．Ｍさん（20 代後半）

大学既卒

受講していた講座

重要問題習得講座、短答知識完成講座Ⅰ、知的財産法 / ３講座パック、予備試験 口述試験対策講座
予備試験 論文式試験「予想論点攻略講座」、「Law Practice 民法」解析講座、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

これまで大学の授業と独学で学習を進めていましたが、思うように成績が伸びず、限界を感じたので受講しました。ネット受講可能で、音声ダウンロードもできるため、時間や場所を選ばず好きなときに勉強できるという点が、アガルートを選んだ大きな決め手です。

合格体験記・学習上の工夫

私は大学卒業後、家族の介護とアルバイトをしながら勉強をしていました。そのため、本当に時間がなく、どうやって勉強時間を捻出するかが大きな課題でした。

短答については早めに過去問に手をつけ、問題の形式と難易度を把握しました。その後、１つ１つの肢をじっくり検討し、間違えたところ、分からなかったところはノートにまとめました。最初のうちは時間がかかりましたが、繰り返すうちにだんだん早くなっていき、最終的には１日で１科目を１周できるくらいのスピードになりました。

論文に関しては、アガルートの講座の音声データをダウンロードして、家事をしながら聞き流していました。そして、机に座って勉強できるときは、解説講義を聞いて学んだことをテキストに書き込んで学習しました。繰り返し聞いているうちに、徐々に理解を深めることができました。

私の場合は合格までに時間がかかってしまいました。もう辞めてしまおうかと何度も挫けそうになりました。しかし、この経験はきっと役に立つはずだと自分を奮い立たせて頑張ってきました。今、振り返ってみても頑張ってきて良かったなと思っています。まだまだ先は長いですが、走り続けます。大変な思いをされている方も多いと思いますが、自分が納得するまで頑張ってみてほしいです。

令和６年度
予備試験合格

規範や理由付けが脳内で再生されるように

Ｔ．Ｉさん（20 代前半）【論文 77 位】

大学２年生

受講していた講座

労働法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、法科大学院入試過去問解説講座 / 京都大学
短答式試験「重要トピック攻略講座」、予備試験 口述試験対策講座
採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座 / 基礎編、司法試験 / 耳で覚える重要項目 300・１問１答

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

グループ割などの多様なセールがなされており、手が出しやすい金額だったから。また、完全オンラインに対応しており、地方在住で通学などができなかった私にはとても便利に感じたため。

１年合格カリキュラムはこれさえ受ければひとまず大丈夫という安心感があったため。

合格体験記・学習上の工夫

とにかく重要問題習得講座、論証集、過去問を繰り返すことを意識して勉強しました。その中で、重要問題習得講座は科目にもよりますが、多い科目では合格までに７周程度したものもあります。他には、過去問の検討をとにかくおろそかにしないことを意識しました。２周目をすることは時間の兼ね合いでできませんでしたが、全年度分を一度は起案しました。他には、アガルートの論証集は空きスペースが多くあったため、過去問演習の中や基本書を読んでいる中で論証集を自分に合うようにカスタマイズすることを多くすることで、論証集を一元化教材として、試験直前にはこれを何度も読み返すということをしました。

また、アガルートの論証集は音声のダウンロードが可能であるため、これを移動中やお風呂の中で何度も聞きました。そのおかげで、規範や理由付けが先生の声で脳内で再生されるようなことが多くありました。

音声のダウンロードを聞くことも含めて、隙間時間で短答をスマホで解くなどして時間を有効に使いました。

令和６年度
予備試験合格

カラーのテキストで難解なイメージがほぐれた

古川 大貴さん（20 代前半）

大学４年生

受講していた講座

労働法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験答練、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけは、講座の価格が他の予備校と比較して安かったことが最初のきっかけです。そして、アガルートを調べていると、合格実績も近年勢いがあって、講座の質もとても良いとSNSで評判となっており、また、フルカラーテキストが個人的にはとても魅力的でした。法律の勉強は難解なイメージが強かったので、カラーのテキストで少し難解なイメージがほぐれました。以上の理由により、私はアガルートを受講することを決めました。

合格体験記・学習上の工夫

合格を勝ち取れた理由や方法についてはもっぱらアガルートのおかげといっても過言ではありません。学習の上で意識していたことは３つあります。１つ目は、あまり深く追いすぎないことです。深く追いすぎると効率的に勉強ができませんので、「こんなもんか」とさらっと流すのも結構重要だったりします。

２つ目は、隙間時間を効率的に利用することです。私は、通学の時間や昼休憩の時間など合間の時間を見つけてよく論証集や自作のまとめノートなどで勉強していました。私は受験生のレベルや予備試験の採点基準については詳しくはわかりませんが、体感ではある程度論点を抽出できて論証を正確に書くことができれば、応用的なことはできなくても合格できると感じました。なので、この隙間時間の勉強は合格に一役買ってくれたと思います。

３つ目は、重要問題習得講座を含めたアガルートから提供されるテキストについては完璧にすることです（特に問題集。テキストは緩めで大丈夫です）。多くの方が仰っていますが、やはり重要問題習得講座は合格するうえで非常に有益なテキストです。私は、重要問題習得講座やアガルートから提供される問題集については、すべて問題と参考答案を覚

えていました（もちろん一言一句完璧にではないですが)。特に重要問題習得講座は網羅性が高いですから、本試験の問題もおのずと重要問題習得講座の問題のどれかに似ています（憲法などの公法系は少し違いますが)。なので、似ている問題が出たら、それに対応する重要問題習得講座の問題の参考答案を参考にして答案を書けばよいです。なので、重要問題習得講座を含めたアガルートから提供されるテキストについては完璧にすることは重要です。

令和６年度

予備試験合格

教材を絞り込み何周もやりこんだことが合格の秘訣

M. Mさん（30 代前半）

社会人

受講していた講座

重要問題習得講座、論証集の「使い方」、論文答案の「書き方」、耳で覚える総合講義１問１答

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

予備試験合格者の中で、アガルートの重要問題習得講座の評判が特によく、実際にサンプルを拝見したところ、非常に良問揃いのように感じられ、一問一問の講義時間も短く、これなら続けられそうだと思ったから。また、講座の金額も他社と比較するも低廉で、良心的に感じられたから。

合格体験記・学習上の工夫

前年の秋ごろから、アガルートの論文答案の「書き方」講座を利用して、早いうちから論文の書き方を習得するとともに、論文合格に必要な知識は何かを見極めることをとにかく意識しながら勉強していました。

短答対策については、３月以降、とにかく過去問を周回し、その都度条文に丁寧に当たるようにしました。短答対策が同時に論文の対策にもなるように、論証の理解と暗記も並行して取り組みました。

論文対策については試験まで時間がなかったため、色々な教材に手を出すのではなく、『アガルートの重要問題習得講座を完璧にする』という一点のみを目標に、予備試験の過去問と並行して取り組みました。どの科目も、重要問題習得講座の答案構成を４周以上行い、問題をぱっと見ただけで脳内で答案の流れや論証を想起できるようになるレベルまでやりこみました。４周以上取り組んだあとは、予備試験の過去問を見て答案構成を行い、わからなかったポイントについては重要問題習得講座で確認する、という作業をとにかく繰り返しました。

早いうちから論文の書き方の習得に努め、論文合格に必要な知識は何か・自分には何が足りないのかを見極めながら勉強したこと、取り組む教材を絞り込み、それを何周もやり込んだことが、最短合格の秘訣だったと実感しています。

令和６年度

予備試験合格

満遍なくカバーしている重要問題習得講座

Ｓ．Ａさん（30 代前半）

法科大学院　既修既卒

受講していた講座

重要問題習得講座、論証集の「使い方」、総合講義 100、労働法 総合講義、労働法 過去問解析講座
労働法 論証集の「使い方」、司法試験過去問答練ゼミ、総合講義 100、予備試験 / 論文過去問セレクト答練
法律実務基礎科目講座・答練パック、予備試験答練、司法試験 論文過去問解析講座、予備試験 論文過去問解析講座
予備試験 論文過去問セレクト答練

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

ブログやSNSなどで先生の評判がよかったこと、また過去問をやる前提としての基礎学力が足りていないのでは……と悩んでいた時に他の予備校の講座とも比較して、最終的に重要問題習得講座がよさそうだと判断いたしました。

合格体験記・学習上の工夫

当初は重要問題習得講座の問題を見ても歯が立たなかったため、問題文を読む→解説を読む→答案例を読む、という感じでした。２回目からは問題文を読んで答案構成をしていました。それから答案例と突き合わせて、論証はしっかり書けているか、あてはめの要素が不足していないか、評価は怠っていないか、結論は書けているか、罪数処理はしているか、などの観点から復習していました。論証が曖昧なときはそこの箇所を暗記し直しました。予備試験は司法試験より論点抽出力が試されるな、という印象だったので、とにかくどの論点か、なにを問題にしていてどういう取っ掛かりで考えていけばいいかの瞬発力を鍛えるため、重要問題習得講座を複数回回すことは非常に有益だったと思います。特に民法などは他の科目に比べて典型的な論点よりはひねった形で問題が出されている印象のため、幅広い知識を総ざらいしてどのような手段がとれるかぱっと思いつくことが大事だと思います。そういった意味でも、満遍なく親族法までもカバーしている重要問題習得講座は有用でした。

令和６年度

予備試験合格

躊躇せずアガルートの一冊を完璧に

T．Mさん（20 代前半）

大学１年生

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム、倒産法 / 重要問題習得講座、倒産法 / ３講座パック
予備試験論文式試験「予想論点攻略講座」、予備試験論文式解答解説、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

圧倒的な合格実績です。

当時、私は田舎の高校性であり、校舎に通学して勉強をすることはとても難しい状況でした。そんな中、オンライン予備校という存在を知り、調べてみることにしました。

どうやら、アガルートという予備校があるらしい。見てみると、最近できたばかりの予備校ではないか。新しい物好きの私は、０から合格実績を打ち立て、司法試験予備校の王道の地位を築きつつあるアガルートへの入塾を決めました。

合格体験記・学習上の工夫

同じことを繰り返すことです。

合格者の皆さんが口をそろえて言うように、重要問題習得講座だけ回していれば受かります。実際、お恥ずかしながら私は旧司法試験論文過去問解析講座も受講していましたが、ほとんどテキストを開いていません。科目によっては、一切開いていないものもあります。

まずは一冊を完璧に。なんてよく言われますが、そんな簡単なことではありません。まず、「その一冊をどれにするか」という問題があります。その一冊選びでミスってしまったら、お先真っ暗だ。皆が良いって言うけれど、実際に自分に合っているのだろうか。なんて、私は疑心暗鬼になっていました。しかし、アガルートの教材はその一冊であると自信を持って言えます。躊躇せず一冊を完璧にしてください。

次に、一冊を完璧にするのには、相当な時間・労力が必要であるということです。合格者の多くは、〇周も回した！〇倍速で講義を聞いた！等と効率的な勉強法を提示されています。しかし、凡人には無理です。凡人は、ひたすらに時間をかけて盤石な基礎を固めるにつきます。私は凡人なのにそんな合格体験記に感化されとにかくスピードを意識した結果、穴だらけの基礎になってしまいました。

ではなぜ、合格者の多くはそんなことを言うのか。これは、直前期は否が応でも周回するからです。予備試験はエスカレーターを逆走するような試験です。膨大な範囲を忘れないうちに一気に頭に詰め込み、最高の状態で試験に臨む必要があります。そのため、直前期はこんな私でも論証集を１時間で一冊読めるようになっていました。もっとも、こうなるまでには盤石な基礎が必要です。躊躇うことなく、丁寧にテキストを回してください。

令和６年度
予備試験合格

効率的な内容のため、時間がない人におすすめ

Ｒ．Ｆさん（20 代後半）【論文 15 位】

社会人

受講していた講座

経済法 / ４講座パック、重要問題習得講座、総合講義 100、法律実務基礎科目対策講座、論証集の「使い方」
予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

個別指導の先生に勧められました。ほかの予備校と比較して効率的に勉強することができると聞きました。実際に使ってみると他の予備校より効率的な内容でした。時間がない人にはおすすめの予備校です。時間をかけたくない人が選ぶべきです。

合格体験記・学習上の工夫

勉強開始当初は、総合講義 100 を２周しました。ただ講義を聞いただけで特別なことはしていません。

論文対策としては、重要問題習得講座と過去問を行いました。

重要問題習得講座については、一切起案しておらず、答案構成のみで５周しました。

過去問については、全年度１回起案したうえ、令和分は２回目も起案しました。

論証集は、10 周以上やったと思います。講義については、数十回聞きました。

法律実務基礎科目対策講座も実務基礎科目の勉強に役立ちました。

選択科目については、総合講義と論証集と司法試験過去問のみで十分でした。

短答については、短答の過去問集を３周しました。１周目と２周目はフルで１周しました。３周目は、間違えた問題のみ実施しました。

口述については、全年度の過去問をやるとともに、基本書などでインプットしました。

判例百選については、会社法、民事訴訟法、刑事訴訟法、憲法を使用しました。

要件事実については、大島「民事実務」、「法律実務」を使用しました。

令和６年度
予備試験合格

将来のために何か資格を取りたいという思いから

Ｒ．Ｋさん（20 代前半）

大学４年生

受講していた講座

倒産法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験 口述試験対策講座、予備試験論文式解答解説

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

大学入学時は法曹志望ではなかったが、将来のために何か資格を取りたいという思いから予備試験合格を目指した。そのため、大学院の進学は考えておらず、バイトやサークルもしていたので、できるだけお金・時間のかからない方法で効率よく勉強したいと考えていた。また、大学受験の際に周りの人との勉強量等の差を気にしてしまい勉強がはかどらないことがあったので、オンラインでの受講を希望していた。

そして、いろいろな予備校や勉強法をインターネットで調べるうちに、アガルートは他の予備校よりも価格が安くかつ自分のペースで質の良い授業を受けられると感じた。

合格体験記・学習上の工夫

大学２年生の春頃から講座を受講し始めたが、インプット講義は理解が追い付かず、あまり集中できない時期が続いていた。ただ、１回目のアウトプット講義を聞いているうちに、問題の出題がどのようになされるかを知ることができ、本当に少しずつではあるものの、記憶に定着してきた。繰り返しアウトプット講義を受けることで何が記憶するべき知識なのかが分かり法学部での授業も理解が進むようになり、定期試験でも良い成績を出せるようになった。アガルートと大学の授業の相互作用で、法律を体系的に理解することができたように思う。

また、予備試験合格を目指し、大学３年の春から短答問題をみっちりやったことで、短答試験終了後に再び論文問題を解くと、以前よりも問題が解けるようになっており、重要問題習得講座の進みも確実に早くなった。

論文対策として、ひたすら重要問題習得講座や過去問を徹底的に解いた。その際に、１回解いて満足するのではなく、１日後、１週間後、２週間後に、同じ問題の答案構成をするなどして復習を行い、記憶に定着させることを意識した。それにより、論文式試験の解

くための型を修得し、合格することができたと感じている。

令和６年度
予備試験合格

テキストがとても分かりやすい

Ｊ．Ｓさん（20 代前半）【論文 74 位】

大学４年生

受講していた講座

予備試験１年合格カリキュラム マネージメントオプション、労働法 / 重要問題習得講座、労働法 / ３講座パック
予備試験 口述試験対策講座、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

もともと法曹になることを目指しており、法科大学院への進学を考えていたが、大学２年のとき、早めに学習を開始したほうがよいと考え始め、法科大学院への進学も視野に入れつつ、予備試験の勉強を始めた。アガルートのサンプル講義を受講し、テキストがとても分かりやすいと感じたため、受講を決めた。

合格体験記・学習上の工夫

【短答について】

初年度の短答式試験は、漫然と過去問を解くことを繰り返し、アウトプット偏重の学習となっており、点数が伸びなかった。２年目からは、判例六法を一元化教材とすることに決め、過去問を解く際に出てきた条文・判例をマークし、直前期に見直すという勉強をした。また、繰り返し誤答する問題については、Wordファイルにまとめ、試験の休憩時間に確認できるように準備した。

【論文について】

過去問を含め、論文の問題を解く際は、常に答案の型を意識していた。重要問題習得講座を解く際は、論点にばかり目が行きがちであるが、試験で見ることができるのは六法なので、条文を中心に思考することを意識した。また、試験の直前期に重要問題習得講座を全科目総復習することはできないと考えていたため、重要問題習得講座で得たあてはめの指針等の知識についても論証集の余白に書き込み、一元化した。直前期は論証集のみを繰り返し周回した。

【口述について】

口述受験生の中で沈まないことが重要だと考えていたため、多くの受験生が使う基本書

（基本刑法Ⅱ等）を繰り返し読み込んだ。

令和６年度
予備試験合格

隙間時間の勉強と机での勉強を分けてメリハリを

Ｓ．Ｆさん（20 代前半）

大学２年生

受講していた講座

労働法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム マネージメントオプション、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

法律の勉強をスタートする際に、ほかの予備校にはなかったマネージメントオプションがついているというところに魅力を感じた。最初に勉強の計画などを一緒に立ててくれたりすることによってより高い学習効果が得られると思ったから。

合格体験記・学習上の工夫

アガルートの重要問題習得講座や過去問を論文も短答も何周も回した。どちらも 10 周以上は余裕でしていると思う。途中でこれだけで本当に良いのかどうか不安になることもあったが、むやみに基本書や演習本に手を出さずにそれらを集中してやりこんだのはとてもよかったと思うし、それが合格に必要だと思う。学習上の工夫としては隙間時間にできるもの（論証を覚えたり、短答の過去問をやったり）と机に向かわないとできないもの（初期の論文学習や過去問）に分けてメリハリをつけながら勉強していた。また、私の性格上もあると思うが、１週間や１か月ごとに何をやるかという計画を自分で立ててそれを消化するという徹底的な計画立ても重要だと思う。これによって自分に必要な勉強についてもその都度考えることができた。法律の勉強は膨大な量があると思うので、自分がその時点でやるべきことを把握して、やることを絞ったうえでそれをコツコツやるという継続力が何よりも重要だと感じた。

令和６年度

予備試験合格

効率的な学習を意識

Ｙ．Ｈさん（20 代前半）【論文 43 位】

大学３年生

受講していた講座

倒産法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験 口述試験対策講座、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

司法試験受験を決意した際にアガルートの講座を受講しようと思ったきっかけは、インターネットで調べた時に、合格実績が豊富で、信頼できる指導を受けられると感じたからです。さらに、他の予備校と比較してセール時の価格が安く、コストパフォーマンスに優れている点も大きな決め手でした。質の高い講義をお得に受けられる点で、アガルートは非常に魅力的だと感じました。

合格体験記・学習上の工夫

予備試験に合格するために私の勉強法として、効率的な学習を意識したことが重要でした。まず、アガルートの総合講義はスピーディに聞き終わることを心がけました。予備試験は広範囲な知識を求められるため、まずは全体像をつかむことが大切です。そこで、講義を一度終わらせることで、各科目の重要なポイントを把握し、その後の復習で細かい部分を補強する方針を取りました。そして普段の勉強方法としても、学校の授業やその他の予定が空いた時間に勉強を進めることを心がけました。これにより、長時間の勉強時間を確保できなくても、少しずつでも学習を進めることができました。

また、重要問題習得講座を繰り返し解くことに注力しました。この講座は、予備試験における頻出問題や重要問題を厳選しているので、問題の解き方を身につけることができました。

さらに、論証集をしっかり覚えることも重要だと感じています。論証集の内容をキーワードを中心に覚え、必要に応じて応用できるようにしました。

令和６年度

予備試験合格

独学に限界を感じていた

Ｓ．Ｈさん（30 代前半）

社会人

受講していた講座

総合講義 100、倒産法 論証集の「使い方」、論証集の「使い方」、予備試験 口述試験対策講座
総合 22 位合格者が教える，出題趣旨を掴まえる問題文の読み解き方
総合４位合格者が教える，30 分で済ませる答案構成講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

基本書での独学に限界を感じていたときに、合格者の使っている論証集でよくアガルートの名前が挙がることから気になりはじめ、口コミを調べたところ、評判から伺える質の良さに比べて価格が手に届きやすいと感じたため受講を決めました。

合格体験記・学習上の工夫

数年前に一度予備試験に向けて学習をしていたものの、法学の学習においてよく言われる「分からなくても先に進む」が守れず、挫折してしまったことから、再び受験を決めたブランク明けの学習では、とにかく基本事項を１周することを最優先にしました。全体をひととおりみたあとということでの２周目以降の勉強のやりやすさというのはもちろん、１周をしたことそれ自体の達成感からモチベーションを保てるという意味でも良かったと思います。

また、実際に論文式試験を受けて、インプットの段階でも常に答案を書くことを意識することの重要性を感じました。試験本番に向けた勉強の段階では私はあまり自覚的にはできていなかったのですが、それを意識して構成してくださっているアガルートの論証集に助けられました。

165 点以上とれる気がしなかった短答式数か月前・公法系科目の手応えがなさすぎて刑事系前に帰りたくなった短答式本番・短答対策に時間をかけすぎて間に合う気がしなかった論文までの２か月・実務基礎で１ページ丸々書いたところで訴訟物を取り違えたことに気付き、もう手を止めてしまおうかと一瞬頭をよぎった論文式本番・過去の合格者の口述再現レベルに達せる気がしなかった論文の合格発表から口述試験までの１か月間、自分に甘いがために色々なタイミングで諦めそうになりましたが、ぎりぎりで何とか踏ん張れたことで、夢までの一歩を進めることができました。ご指導ありがとうございました。

令和６年度

予備試験合格

学校の講義との両立がしやすい

Ｓ．Ｆさん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

重要問題習得講座、総合講義 300、短答知識完成講座Ⅰ、労働法 / 総合講義、論証集の「使い方」、論文答案の「書き方」

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

大学２年生になるにあたり、司法試験を目指そうと思い至りました。さまざまな予備校を検討したところ、アガルートは価格が安いほか、問題演習にベースを置いているため、学校の講義との両立がしやすいと考えました。

合格体験記・学習上の工夫

とりわけ総合講義 300 をまずは短期集中で終わらせることです。先生が講義中何度もおっしゃっているように、わからないところで立ち止まってはキリがないので、とにかく先に進むこと、また、常に問題演習を重ねることを意識しました。私は京都大学の法曹基礎プログラムを履修していたわけですが、常に全科目で高得点を取り続ける必要があります。学習範囲が膨大になる分、何が出ても一定水準の答案を書けるようになることを常に意識しながら学習に取り組みました。その中で、特に重要問題習得講座は、学習すべき範囲のメルクマールとして非常に有用であり、ここに載っている問題を完璧にしておくことで、大概の問題には対応可能でした。予備試験においても、重要問題習得講座の問題をできるかできないかが合格の分かれ目になると思います。相対評価の試験であるほか、論文の受験生のレベルは本当に大して高くないので、論点を抽出できれば、合格水準に達します。そのような試験ということを意識して、アガルートの講義に一つ一つ取り組みました。

令和６年度
予備試験合格

論証集を軸に、流れや当てはめを意識して勉強

M.　S さん（20 代前半）【論文 78 位】

大学４年生

受講していた講座

判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

元々、市販のアガルートの論証集を使用していて、とても重宝していました。そのことからアガルートが気になり、ちょうど百選を学びたいと考えていたところ、アガルートに判例百選スピード攻略講座があったことから、受講を決めました。

合格体験記・学習上の工夫

私は、法律の勉強をしていた歴だけは長いのですが（大学１年生春から他予備校の講座を受講していました）、勉強に本腰を入れ、学力が目に見えて伸びたと思う時期（大学３年生秋以降）にしていたのは、論証集を使った勉強ばかりでした。

論証は、ただ丸暗記するだけでなく、「そもそもなぜこの論点が問題になるのか」「何条のどの文言との関係で問題になるのか」「この要件が挙げられている趣旨は」「この要件では具体的にどのような事実を拾えばいいのか、どのように当てはめればいいのか」ということを、基本書や元になった判例にあたるなどして調べつつ、それらを頭に入れることを意識して、ひたすら何周もしていました。これをすると、自分の頭の中に、論理に紐づいた形で論証が蓄積されていくので、ただ丸暗記した場合よりも、格段に論証を思い出しやすくなりますし、また、採点者に「わかっている」アピールのできる答案が書けます。

論点に飛びつくなとはよく言われることですし、教授の先生などで論証集にいいイメージを持たない人も多い印象はありました。しかし、そうはいっても論点に答えなければ点はきません。かといって、百選や基本書をただ読んでも、どうしても目が滑ってしまい、効率が悪かったです。まず論証集で注目すべきポイントに目星をつけた後に、それを前提に判例や基本書に当たる、というのが、私にはあっていました。

どうやって勉強しているか、と友人から聞かれると、いつも論証集を回している、としか答えられないのですが、それは、ただ論証を暗記して頭に詰め込んでいる、ということ

では全くありません。論証集を軸にして、実際に論文を書くときの流れや当てはめを意識して勉強していました。このことで、必要最低限である判例の文言以外の丸暗記の必要をなるべく減らすようにしていたと思います。

令和６年度
予備試験合格

市販の演習書には一切手を出さず

北原 諒人さん（20 代前半）【論文 98 位】

大学３年生

受講していた講座

経済法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、法科大学院入試過去問解説講座 / 東京大学
予備試験 口述試験対策講座、予備試験 論文式試験「予想論点攻略講座」
採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

予備試験を合格するために予備校を利用しないことは時間がかかり、合格も現実的ではない気がしたので、まず予備校を検索することにしました。そして、試験は相対評価なので、利用者の数が非常に重要だと感じ、他校とアガルートが残りました。そして、私が入塾したときは 30％オフキャンペーンをやっていて格段にアガルートが安かったので、アガルートにしました。

合格体験記・学習上の工夫

まず、短答についてはアガルートの短答過去問解説講座のテキストを利用し、理由も含めて積極的に○×をつけられるまでやりこみました。あと私は直前期簡単に振り返りができるようにWordに細かい条文や判例をまとめていました。このWordファイルは当日の空き時間も見ていました。

前年度の論文試験を受けた際に、周りの受験者が自分の想像以上にレベルが高くないと感じました。なので、基本的な事項を正確に習得すれば、落ちる試験ではないと思います。そこで私は、市販の演習書には一切手を出さずに、アガルートの総合講義テキストと重要問題習得講座を基本的に使いつつ、過去問と旧司法試験の問題（いずれもアガルートの講座に含まれていたもの）を行いました。司法試験の過去問は一切やっていなかったのですが、かなり親和性があるので時間があればできるとよいと思います。

口述試験は民事は大島「民事実務、法律実務」、刑事は「基本刑法」をしっかりやりこみ、過去問を前年度３回以上繰り返せば落ちる試験ではないと思います。

令和６年度
予備試験合格

他校の教材で成績向上に限界を感じた

丹羽 宏彰さん（20 代前半）

大学４年生

受講していた講座

総合講義 300、採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座、耳で覚える重要項目 300・１問１答

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

他校の教材でもともと学習していましたが、成績向上に限界を感じたので安価で質の高い講座を提供しているアガルートアカデミーの利用を考えました。実際に、コンパクトな講義でも内容は充実していたように思います。

合格体験記・学習上の工夫

一年目から短答には合格しており、基本的な知識には問題がないはずであったので、主に論文過去問や司法試験過去問を利用して点数の取れる答案の書き方を身につけることを意識しました。私はアガルートの講座で採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座を受講していました。知識量は十分であると考えていたことから、合格レベルまで引き上げるには採点実感等から実際評価される答案がどのようなものであるか学ぶことが有益であると考えたためです。実際、当初の答案はやや論点主義的で条文ベースで答案を書くことができていなかったように思います。

石橋先生の明快な講義で、知識不足以外の要因によって手が止まってしまったり、不正確な答案を書いてしまう、問題の所在は把握しているのにうまく点数がつかないといった悩みが解消されました。

今年の予備試験論文式では多くの科目でＡ・Ｂ評価をいただくことができたのは、採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座を用いて点数の取れる答案のスタイルを習得できたからだと思います。

令和６年度

予備試験合格

論文の苦手を克服するために受講

Ａ．Ｋさん（20 代前半）

大学４年生

受講していた講座

重要問題習得講座、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

短答については成績が安定していたものの、論文の成績が伸び悩み、勉強方法に迷っていた。そんな中周囲で重要問題習得講座が論文の知識や答案の型を習得するのに有効であるという評判を耳にし、苦手を克服するために受講を決めた。

合格体験記・学習上の工夫

短答に関しては予備校の講座を利用せず、基本書の通読や過去問をひたすら解く方法によって、知識を習得し、成績を向上させた。１年目の受験では功を奏さなかったものの、２年目以降は同様の勉強方法によって安定して点数を取ることができ、最終合格まで継続して合格することができた。論文に関してはアガルートの重要問題習得講座を受講したところから、実力が徐々に身についていることを実感し、成績が向上するようになった。模範解答や答案構成例を何度も読み返し、どのような事案の場合にはどのような思考過程を辿るのかを、ある程度暗記した。そして初めて見る事案にも対応できるように、どのような事情の変更があった場合にはどのように結論が変わるのかまで応用的に考えるように意識して勉強を進めた。なかなか成果は出なかったものの、そのような勉強と組み合わせて基本書等も利用するようになったところから成績はさらに飛躍し、最終合格を勝ち取ることができた。

令和６年度

予備試験合格

テキストの質の高さに驚き

洞 裕貴さん（20 代後半）

社会人

受講していた講座

労働法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、法律実務基礎科目講座・答練パック
予備試験論文式解答解説、予備試験 口述試験対策講座
採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座 / 基礎編 + 実践編パック

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

司法試験予備試験を受験するにあたって、どこの予備校に通うか迷っていたところ、問題演習のテキストのサンプルを見て、その質の高さに驚きました。そして、合格実績も高かったことからアガルートでがんばることを決意しました。

合格体験記・学習上の工夫

私が合格できた最大の要因は、重要問題習得講座のテキストの問題集と司法試験予備試験の過去問を、ひたすら問題演習を通してやりこんで、実際に答案を起案したことだと考えています。

ただ基本テキストや演習用のテキストを読んでインプットしたりするだけで、日頃から問題演習や実際に本番どおりに答案を起案するなどしてアウトプットしなければ、合格するのは不可能に近い試験であることを、実際に司法試験予備試験に合格して体感しました。

問題演習用のテキスト（重要問題習得講座など）で答案構成したり、過去問や答練を起案することや論証を覚えることは本当に大変なことでしたが、毎日地道に繰り返しやることで確実に答案の質は向上していきました。

もし、完璧主義に陥ってしまいいつまでも問題演習や実際に答案の起案をしていなかったら、答案の書き方がいまいちわからないままで、予備試験の合格はほぼ確実にありえなかったと思います。

なので、学習の初期段階では完璧主義に陥らずに、とりあえず実際にたくさん答案を起案して採点してもらい、どのように書けば点数が取れるのかの感覚をつかむことが大切です！

令和６年度

予備試験合格

目的を意識することで必要周回数を減少

H．S さん（40 代前半）

社会人

受講していた講座

国際私法 / ４講座パック、予備試験最短合格カリキュラム、短答式試験「重要トピック攻略講座」
予備試験 口述試験対策講座、予備試験 論文式試験「予想論点攻略講座」
採点実感から読み解く合格答案の「型」習得講座 / 基礎編 + 実践編パック、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけは、元ぎゃるお先生と谷山先生が在籍されているからです。また、合格体験記から重要問題習得講座を周回すれば合格できるというシンプルな方針が立てられたため、体験講義を受講後、受講を決意しました。

合格体験記・学習上の工夫

短答対策として、１科目目の講義終了後から毎日 15 問解きました。間違えた問題は解説を読み、それでもわからない問題は解説講義を聞きました。講師の先生の解説は大変分かりやすく、有用な反面、受動的な態度でも理解できてしまうことから、まずは解説文からの理解を試みました。また、憲法以外の科目は、可能な範囲で条文を参照するようにしました。ただ、殆どが外出先での勉強だったため、結果的にあまり参照していなかったように思います。

論文対策は、模範答案から自身の頭で考えつく文章を引き算し、残った部分を記憶しました。記憶にはAnkiアプリを活用しました。私は記憶力が低いため、勉強時間の７割程度は記憶の時間だったように思います。

重要問題習得講座は１周目は暗記対象のピックアップ、２周目は論点が浮かび問題提起と論証が記憶できているかの確認、３周目は事案の評価の仕方の習得に使いました。

振り返ってみると、上記の様に、何を目的として問題を解くのかを意識することで必要周回数を減少させられたように思います。これらを同時に実行しようとすると考えるべきことが煩雑になり、私のキャパでは効率が落ちていたと思うからです。

過去問は３周程度やりましたが、本気で過去問に取り組んだのは短答後からでしたし、それで間に合うと思います。早い時期に、どの程度書けないのかを知るのは有用かもしれ

ませんが、重要問題習得講座で合格に必要な力は十分身につくので、焦って手を拡げるより重要問題習得講座掲載論点の処理や論証記憶が優先度が高いと考えます。

ただし、時間配分や出題意図の把握などは過去問からしか学べないため、直前期での過去問検討は必須と考えます。

令和６年度

予備試験合格

応用が効くレベルの習熟度まで到達

Ｓ．Ｏさん（20 代後半）

社会人

受講していた講座

経済法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験 / 論文過去問セレクト答練

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

価格が他の予備校と比較してリーズナブルであった点及び重要問題習得講座の問題の網羅性が魅力的であった点が挙げられます。さらに、他の予備校に無い利点として、旧司法試験の解答例付きの問題集として旧司法試験論文過去問解析講座が存在していた点も挙げられます。

合格体験記・学習上の工夫

総合講義をなるべく早く受講し終えて、１科目受講を終えるとともにその科目の重要問題習得講座を解きました。序盤はあまり理解しないまま問題が解けるようになるのみでしたが、たくさん重要問題習得講座を解くことで理解や記憶を深めて応用が効くレベルの習熟度まで到達することができました。最終的には重要問題習得講座の問題と解答を覚えるに至るまでやり込みました。また、同じ要領で旧司法試験の過去問や予備試験の過去問に取り組み、過去問特有のひねりにも慣れることができました。

このような学習の中で特に大事だと感じたのは多少分からないところがあっても割り切って覚えてしまって最低限解けるという状態を作ることだと思います。また、重要問題習得講座及び予備試験の過去問で扱われているような問題は他の受験生も仕上げていることが考えられるのでそこで出題された問題については、出題されたら高得点が取れるように準備しておくことも重要だと考えられます。

令和６年度

予備試験合格

かなりマイペースに勉強

平山 遼太さん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

倒産法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

私がアガルートの講座を受講したのは、予備試験が初めてではありません。高校３年生の時、行政書士試験を受けており、その際にアガルートの講義を受講しておりました。高校は大学の附属校でしたので、大学で何を勉強するか決定するために、様々な勉強をするための時間が豊富にありました（私は、高校で文系に進むことを決めたので、高校の講義で数学の専門的な勉強をすることはできませんでしたが、数学に興味を持っていたので、数学関連の本を読んだりしておりました)。そこで、行政書士試験が、他の勉強と並行して勉強することができる難易度であること、資格試験が勉強の成果を図るのにふさわしいことから、その受験を決めました。結果的に行政書士試験に合格することができましたが、それは、法学を未修者にもわかりやすく噛み砕いて説明をする、アガルートの講座があったからだと思います。

大学に入学する前の３月に、予備試験受験のために通う予備校を決定する際、予備試験が種々の資格試験の中でも高難易度な試験であること、様々な予備校があることから、その選択に迷いましたが、わかりやすい講義と質問制度等のフォロー制度でしっかりと受験生をバックアップしていただけるアガルートが一番信頼できると感じ、アガルートの講義を受講することに決めました。結果的に、大学の３年卒業と、早稲田大学ロースクールの合格、予備試験合格の手助けをしていただきました。

合格体験記・学習上の工夫

予備試験や司法試験というような、一般的に難しいと考えられている試験の合格者や受験者からは、よく、「寝る間も惜しまず」「誘惑を絶って」であるとか、場合によっては「命を削ってでもやる」というような強烈な言葉が飛び出すことがあります。しかし、私は、このような考え方に賛同できかねるものですから、かなりマイペースに勉強をしておりました。結果的には、これが功を奏したような気が致します（ちなみに、どのくらいマイペー

スかといえば、現在もですが、毎日平均約９時間弱寝て、土日は10時過ぎに起きることが多いというようなものです)。

具体的に、どのように学習をしていたかといえば、大学１年時に、重要問題習得講座を３～４周することで、論文の型を頭に入れ、あとは、試験勉強と並行して自分の気になった文献や論文を読むという生活をしておりました。特に、最近の予備試験論文試験の憲法は、演習本をこなしていれば良いというものではなくなってきているように感じます。このような状況の中では、演習本を回したり、予備校本を読んだりするだけでは、対策として不十分なのでは無いかと思われます（当然、予備校本等で、基礎的な知識をつけたり、判例学習をすることは前提ですが)。今年の試験問題を例に取ってみますと、設問の事実関係は、政教分離に飛びついて大々的に議論を展開するということを誘発するようなものでしたが、よくよく読んでみると、そのような議論は求められていないことがわかります。ここでは、結論のいかんはさておき、公権力が個人の権利を制約する云々というよりかは、事例のような団体の主張を安易に認めてしまうと、社会的な権力による専制を招いてしまうのではないかという問題意識が重要だったのではないかと思われるわけです。深読みをしすぎかもしれませんが、個人的には、最近、メディアや予備試験受験生の中で、人権と憲法が保障する権利の違いが全く意識されずに議論がされてしまっていることに対する問題作成者の一つの問題意識があったのではないかと考えています。いずれにせよ、特に憲法の対策については、アガルートを選択するか否かに限らず、予備校本以上の勉強が要求されると思います。したがって、時間にゆとりを持って、自分の気になることを試験とは無関係に勉強してみるというのが結果的に試験に活きました。

憲法以外の科目ですが、これらは、逆にいえば、基礎的な事項をしっかりと身につけ、予備試験の直前期に模試を受けていれば、それで足りると考えています。そして、この限度では、重要問題習得講座の網羅性、わかりやすい講義というアガルートの強みが活かされておりました。

短答試験については、時期を気にせず、気が向いたときに、無理のない量の過去問を解くという方法で、勉強を進めておりました。口述試験については、あまり勉強する時間がとれなかったのですが、論文試験までの貯金で乗り切りました。

令和６年度

予備試験合格

繰り返すことで規範が自然と身につく

藤本 耕平さん（20 代前半）

大学３年生

受講していた講座

経済法 / 司法過去問解析講座、経済法 / 予備過去問解析講座、経済法 / 論証集の「使い方」、重要問題習得講座
法律実務基礎科目対策講座、論文基礎力養成カリキュラム、予備試験論文式試験「予想論点攻略講座」
予備試験 口述試験対策講座、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

重要問題習得講座、総合講義 300、論証集の「使い方」といったアガルートアカデミーが提供している講座が魅力的であった点及び他の予備校に比べて受講料が低かったことが理由です。アガルートアカデミーの講座は基本的には総合講義 300、重要問題習得講座、論証集の「使い方」の受講によって受験に必要な知識の習得を図ることが出来ます。同様の講座を他の予備校で受講しようとすれば３倍から４倍程度の費用がかかってしまうため、アガルートアカデミーは非常に受講しやすい価格でした。また、テキストはフルカラーであり、より見やすく、より取り組みやすいテキストになっていました。総合講義 300 のテキストは図が多用され、行政法の判例、民法の債権分野など理解するのが少し大変な分野においての理解の一助になっていました。総合講義 300 に取り組んだ後は重要問題習得講座、論証集の「使い方」を何度も繰り返すことにより予備試験合格のために必要な知識を習得することが出来るため、非常に有用な講座でした。

合格体験記・学習上の工夫

私が予備試験に合格できた一番大きな理由は、重要問題習得講座及び論証集に繰り返し取り組んだことにあると考えています。私は重要問題習得講座を①規範と問題文のリンク及び②当てはめのやり方を理解するために取り組み、論証集を③規範の暗記のために取り組んでいました。つまり、重要問題習得講座に取り組むことにより、どのような事案においてどのような論点が問題となり、どのような規範を立てることが要求され、どのような当てはめをすることが必要なのかを理解するために使用していました。そして、その規範の暗記のために論証集を繰り返し読み込みました。ここで、アガルートアカデミーの講座が優れている点は、重要問題習得講座と論証集のリンクが強い点であると思います。他社の講座では論証集に書いていることと、論文講座のテキストに書いていることが違うこと

がありますが、アガルートアカデミーには一切そのようなことはありません。そのため、重要問題習得講座と論証集を繰り返すことで規範が自然と身につくようになっています。

この段階まで来たらあとは過去問に繰り返し取り組むことで、合格点を取得することが出来ます。

令和６年度
予備試験合格

失敗から学び、理解および記憶をしていくタイプ

腰原 汐莉さん（20 代後半）

大学既卒

受講していた講座

環境法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、予備試験 口述試験対策講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

最初はどのように勉強すればよいのか分からなかったため、テレビコマーシャルなどで名前を知っていたアガルートのサンプルテキストを取り寄せることにした。サンプルテキストが分かりやすかったため、受講を決めた。

合格体験記・学習上の工夫

２年半、１日も休まず、毎日勉強した。

具体的には、最初から市販の基本書などを読むことはわからない上に苦痛でしかなく、時間の無駄なので、最初からアガルートの重要問題習得講座の問題を解くことにした。私は基本書などを読んだうえで記憶するインプットを行ったうえで問題集などを解くアウトプットを行うという順序ではなく、問題集で失敗をして、その失敗から学び、理解および記憶をしていくタイプなので、このやり方が合っていると思う。

このやり方で７科目の重要問題習得講座を１年半くらい続けた。

このころになると問題集が手垢と摩耗でボロボロになり廃棄せざるをえなくなったため廃棄した。

その後は予備試験の過去問をひたすら繰り返しつつ、基本刑法や基本行政法、基本刑事訴訟法などの基本書に記載してある基本問題の演習、判例百選の解ける化に取り組んだ。

同じく民事実務基礎科目、刑事実務基礎科目、選択科目、短答試験の過去問の演習も並行して取り組んだ。

令和６年度
予備試験合格

インプットとアウトプットをバランスよく

N．Kさん（20代後半）

大学既卒

受講していた講座

重要問題習得講座、法科大学院入試過去問解析講座 / 中央大学、倒産法 / 重要問題習得講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

大学の同期で司法試験に合格した人が、重要問題習得講座を勧めていたことがきっかけです。この講座では、司法試験において重要な問題の答案の書き方を学ぶことができ、具体的な答案例も付いているため、実践的な学習ができると考えました。また、他のパック講座が何十万円もするのに対し、この講座は10万円程度と比較的手頃な価格であったため、コストパフォーマンスの面でも優れていると感じ、受講を決めました。

合格体験記・学習上の工夫

短答式試験では、過去問を３周しました。私は解説をじっくり読み込むタイプだったため、多くの回数をこなすよりも、選択肢ごとにきちんと理由をつけて選ぶことを意識しました。単なる暗記ではなく、なぜその選択肢が正しいのか、あるいは誤っているのかを理解しながら進めました。特に効果的だったのは、六法に間違えやすい知識を書き込むことです。これにより、知識を体系的に整理し、復習の際にも活用できました。

論文式試験では、過去問演習と、重要問題習得講座の教材から抽出して作成したまとめノートを活用することの両輪で学習を進めました。過去問を解いた際に書けなかった論点は、その都度まとめノートに反映し、すでに記載がある場合は復習を徹底しました。答案の精度を上げるため、問題を解く際はまず答案構成を行い、論理的な流れを意識しました。また、添削を活用することで、客観的な視点からのフィードバックを得るようにしました。

口述式試験では、基本書を読み込み、基礎的な知識を整理することを重視しました。知識の正確性を高めるため、条文や判例の趣旨を意識しながら理解を深めました。全体を通じて、インプットとアウトプットをバランスよく行うことを意識し、効率的に学習を進めました。

令和６年度
予備試験合格

予備校で「基礎」を鍛えて、演習書でその精度をあげる

高橋 嶺王さん（20 代前半）

大学４年生

受講していた講座

労働法 / ４講座パック、予備試験１年合格カリキュラム、判例百選スピード攻略講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

特に理由はありません。しいていうなら安かったから。他の予備校は講座が 100 万円を超えるものも多くその点、アガルートアカデミーは講座の価格がリーズナブルだったので選びました。

合格体験記・学習上の工夫

まず、予備試験は学説は不要です。端的に聞かれたことにこたえる能力があれば足ります。具体的には、問題把握能力と事務処理能力及び筆力があれば足ります。なので、予備試験に合格するために基礎的な事項を完璧にインプットし、それなりのあてはめができればＢはとれるので受かります。そこで、何をすべきかですが、これは予備校の問題集を５周ほどして後は市販の問題集１冊を仕上げればよいと思います。また基本書も通読することをお勧めします。順番は予備校３周→基本書→予備校２周→市販の演習書→基本書→市販の演習書という感じです。まあ要するに、予備校本で問題の所在と事務処理能力という予備試験合格の「基礎」を鍛えて、演習書でその精度をあげて「応用」にも対応できるようにするという感じです。あと、民訴刑訴商法は、演習書のフェーズで判例のインプットをしておくことをお勧めします。これらの科目は、予備試験なのに判例の射程みたいなところを聞いてくることがあり、現場で対応しきれないからです。

令和６年度
予備試験合格

なぜその規範になるのか理解することが大事

Ｙ．Ｔさん（30 代後半）

社会人

受講していた講座

労働法 / 過去問解析講座

合格体験記

アガルートアカデミーの講座を受講しようと思ったきっかけ

ネットで評判もよく、割安だったこともあり検討した。

講師や講義の質も良いとされていて、他の予備校と比較し検討した結果、アガルートに決めた。ネットで好きな時間に勉強でき、テキストもすぐに発送されて速やかに勉強開始できた。

合格体験記・学習上の工夫

時間はかかったが、コツコツ隙間時間を利用した。理解は深めることはあっても、記憶は減退するので、論証の暗記は定期的に行いつつ、基本的知識の習得に時間をかけ、理解を深めていった。

短答は直前期の詰込みが重要と考えて、判例六法を一元化して全てを書き込んで、試験前日に見直す仕組みにすると法律科目で 160 点取れるようになった。論文はまず書き方を覚えて、型を一つ一つ定着させて、使い分けられるようになった。大事なことは、やみくもな暗記ではなくて、なぜその規範になるのか理解すること。そうすれば規範の修正も可能だし、あてはめが充実する。その点について理解してから、論文の力もついて、点数も伸びた。自分でも何を書いてるか分からないようなものはＦで、一応型が作れていればＤはつく。問題文の全ての事情を拾って一つ一つ評価させて議論を対立させればＡがつく。科目ごとの点の取り方を知って意識して書くようになって、論文 100 番台前半で合格することができた。